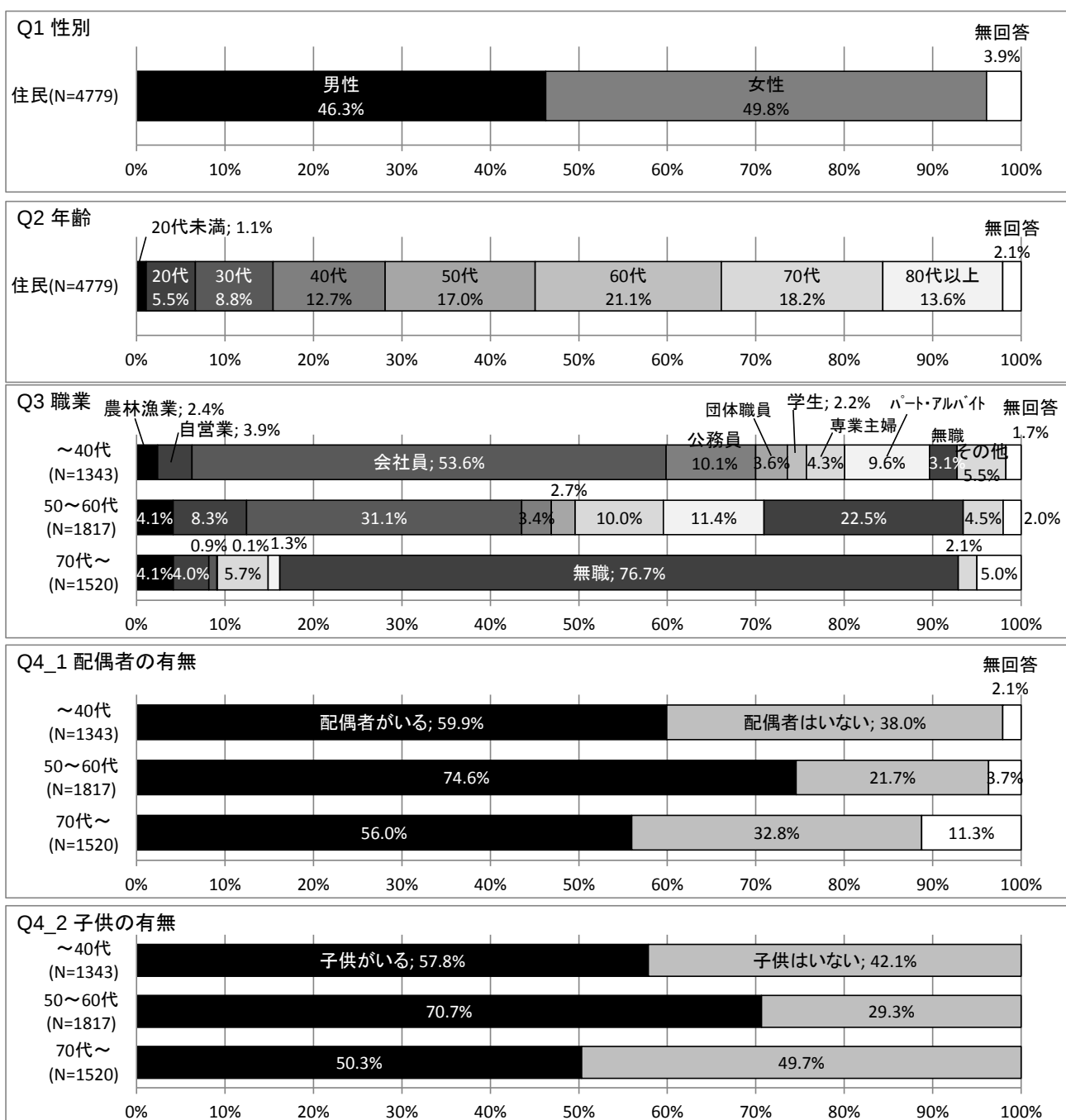


2. 調査結果

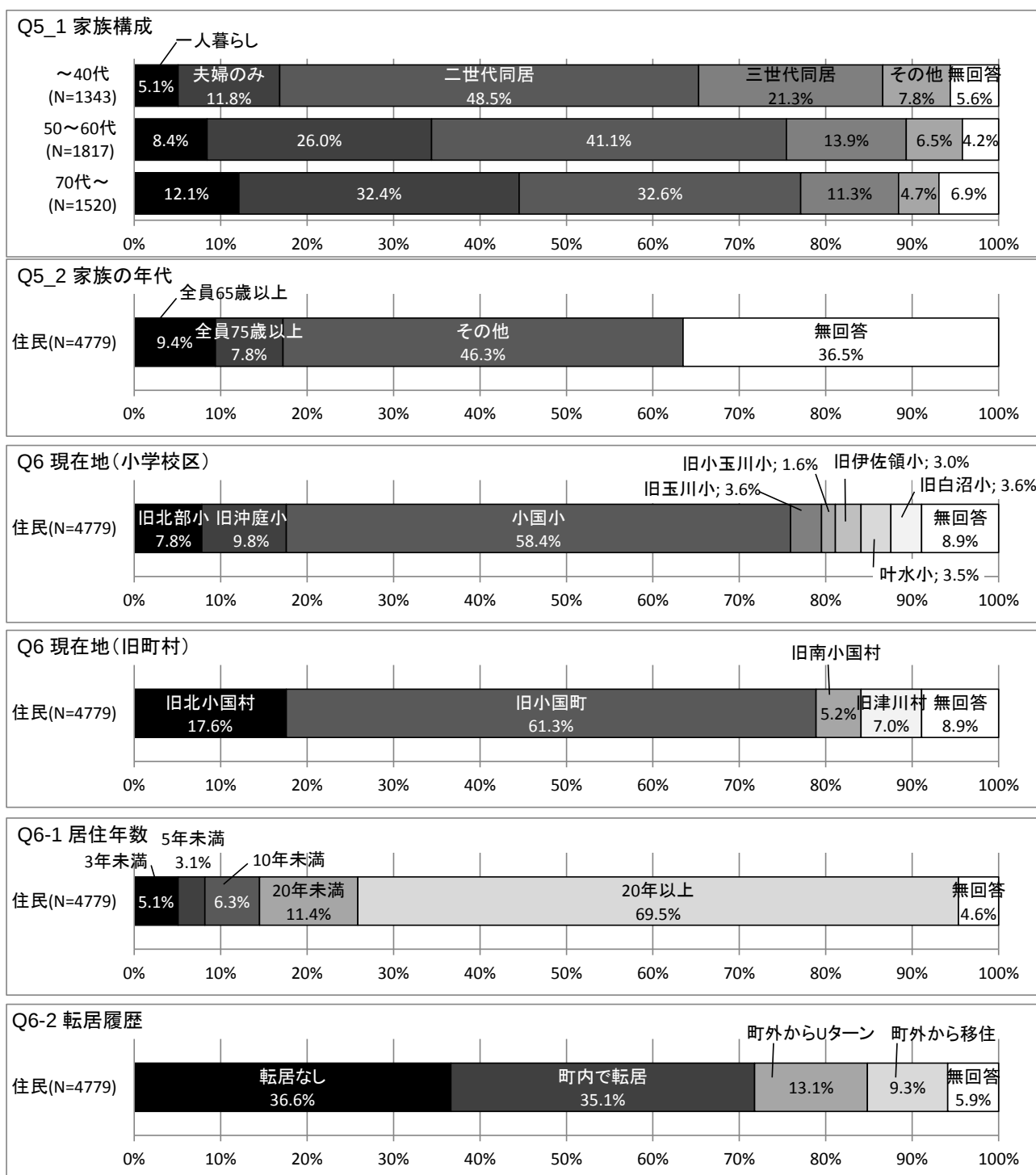
2-1. 一般住民アンケートの結果

(1) 回答者属性

- 回答者の性別をみると、やや女性が多いが、男女ほぼ半数ずつであった。
- 回答者の年齢構成は、60代以上が半数以上を占めている。
- 回答者の職業をみると、40代までは「会社員」が半数以上を占めているが、50～60代になると「無職」が2割強と多くなり、70代以上は「無職」が8割近くを占めている。
- 各世代とも、配偶者や子供がいると回答した人が半数以上を占めている。



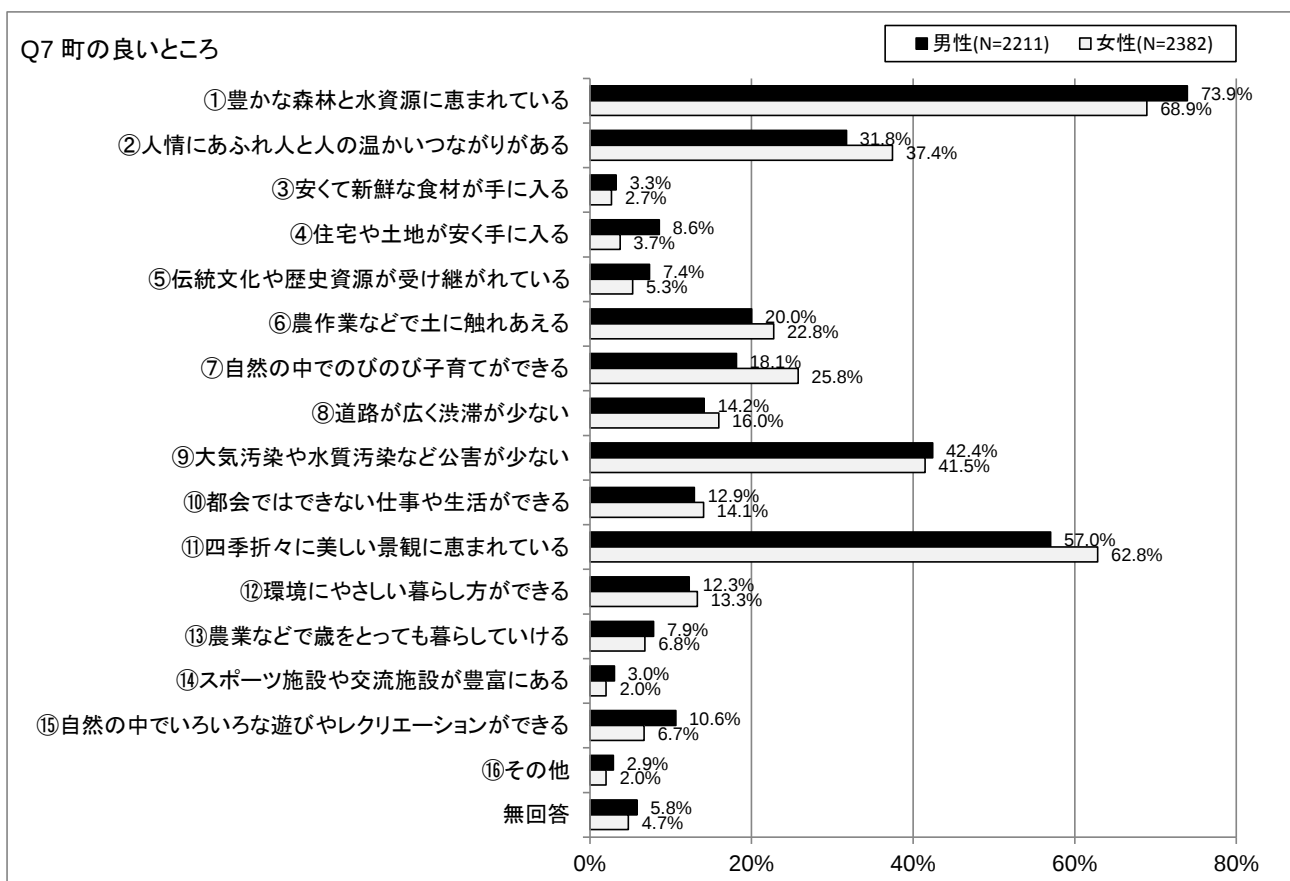
- 回答者の家族構成をみると、40代までの比較的若い世代では、「二世世代同居」が約半数を占め、「三世世代同居」も2割程度みられるが、年齢層が高くなるほど「一人暮らし」及び「夫婦のみ」の割合が大きくなり、70代以上では5割近くが「一人暮らし」又は「夫婦のみ」世帯である。
- 現在の住まいについて、小学校区単位でみると「小国小学校区」が約6割と大部分を占めており、旧町村単位では、旧北小国村が2割弱、旧南小国村及び旧津川村が各5～7%程度となっている。
- 回答者の約7割は小国町に「20年以上」住んでおり、また36.6%が転居経験はないとしているが、町内で転居した経験がある人も35.1%みられた。



(2) 小国町の魅力・イメージ

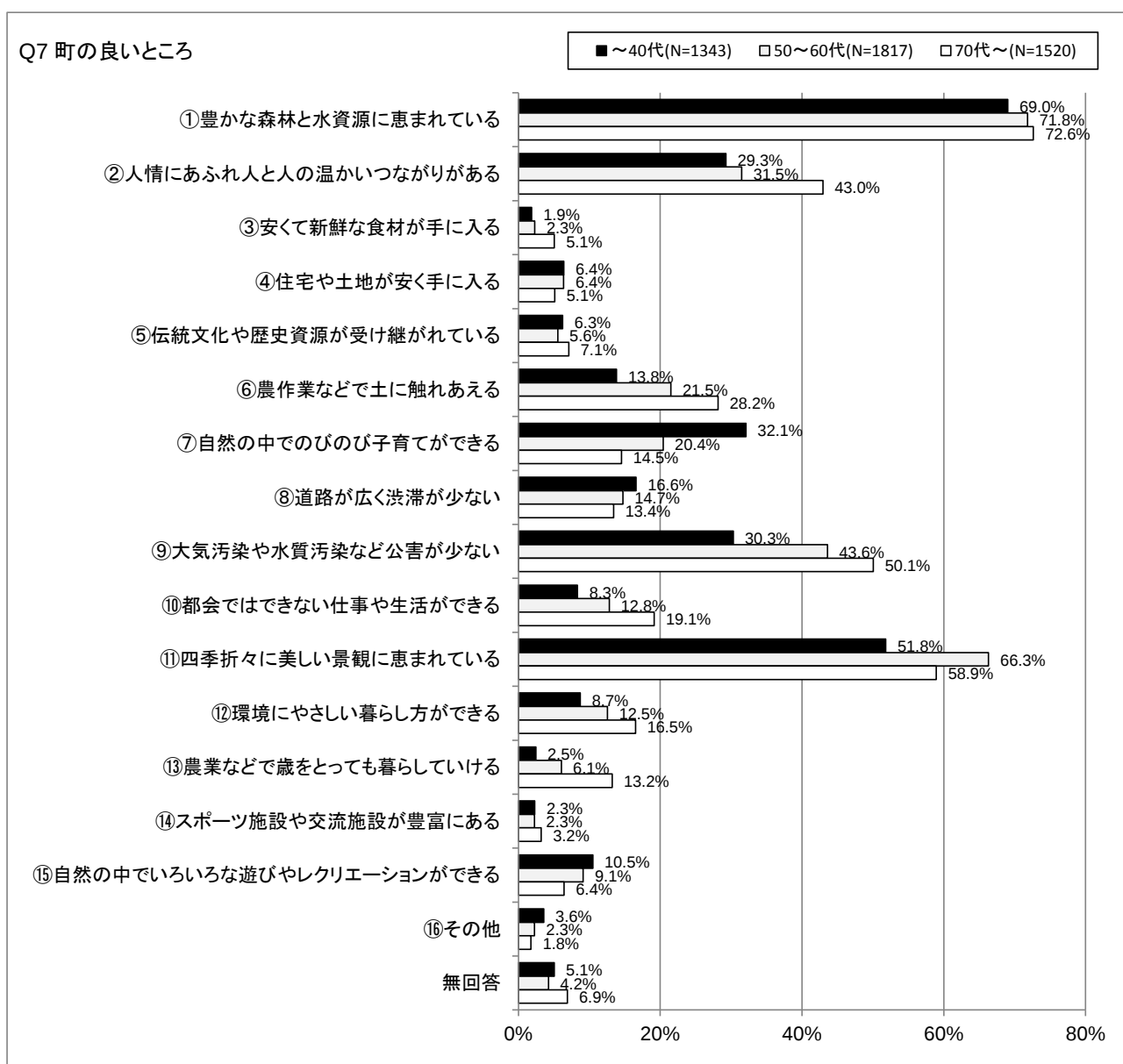
Q7 あなたにとって、小国町の良いところは何ですか。(〇は5つまで)

- 町の良いところとしては、男女とも「豊かな森林と水資源に恵まれている」が第1位に、「四季折々に美しい景観に恵まれている」が第2位に、「大気汚染や水質汚染など公害が少ない」が第3位に挙げられており、小国町が有する豊かでかつ良質な自然環境について高く評価されていることがうかがえる。
- 上位3項目以外では、男女でやや差がみられる項目もみられる。「人情にあふれ人と人の温かいつながりがある」点や、「自然の中でのびのび子育てができる」点については、男性よりも女性の方が高い割合となっている。
- 一方、全体での割合自体は低いものの、「自然の中でいろいろな遊びやレクリエーションができる」点や「住宅や土地が安く手に入る」点などについては、男性の方が女性よりやや高い割合となっている。



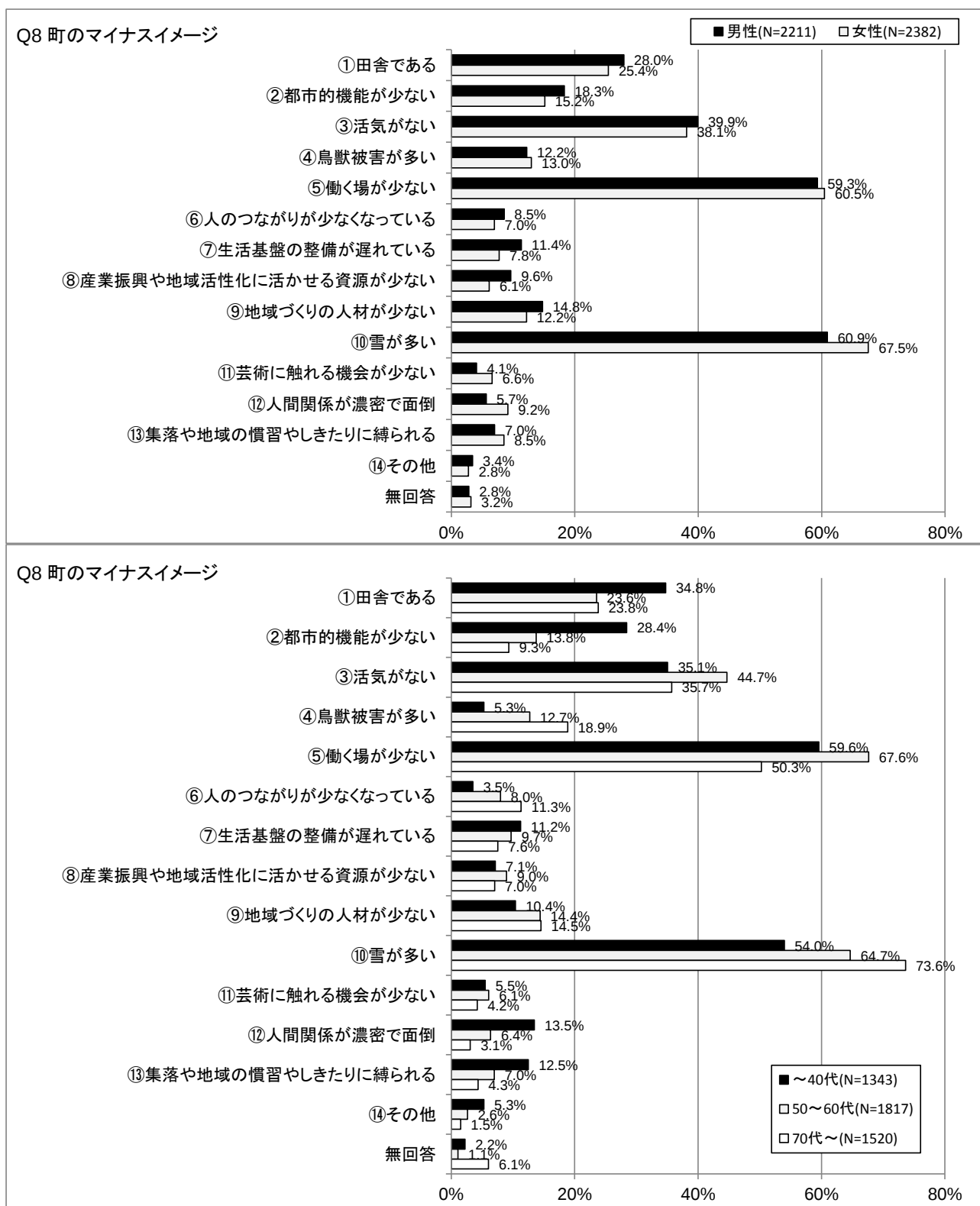
Q7 あなたにとって、小国町の良いところは何ですか。(〇は5つまで)

- 町の良いところについて世代別で比較すると、自然の豊かさ（①豊かな森林と水資源に恵まれている、⑨大気汚染や水質汚染など公害が少ない、⑪四季折々に美しい景観に恵まれている）や、人々の温かいつながり（②人情にあふれ人と人の温かいつながりがある）については、特に高齢世代の方が高く評価している。
- また、高齢世代では、若い世代と比べると、「⑥農作業などで土に触れあえる」点や「⑩都会ではできない仕事や生活ができる」点、「⑬農業などで年をとっても暮らしていける」点など、農業を中心とした生活についてプラスに評価する人が多いことが分かる。
- 一方、「自然の中でのびのび子育てができる」点や「⑮自然の中で色々な遊びやレクリエーションができる」点などは、40代までの若い世代で比較的高く評価されている。



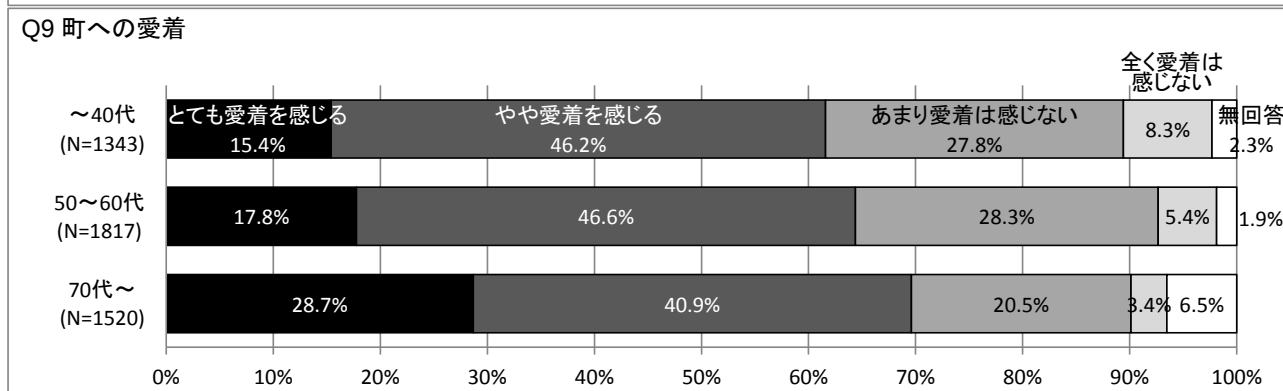
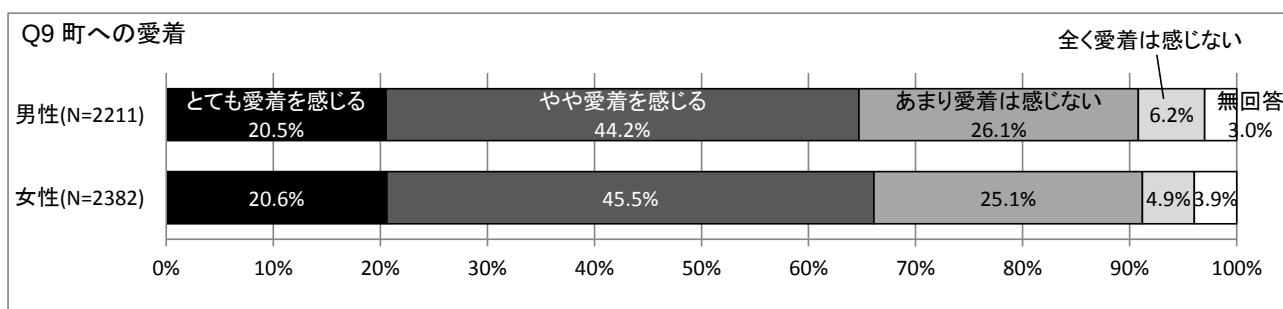
Q8 あなたは、小国町にどんなマイナスイメージをお持ちですか。(〇は3つまで)

- 町のマイナスイメージとしては、男女とも約6割超が「⑩雪が多い」と「⑤働く場が少ない」の2点を挙げており、これらに次いで「③活気がない」点が4割近くとなっている。
- 「⑤働く場が少ない」は特に60代までの現役世代で高い割合である一方、「⑩雪が多い」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

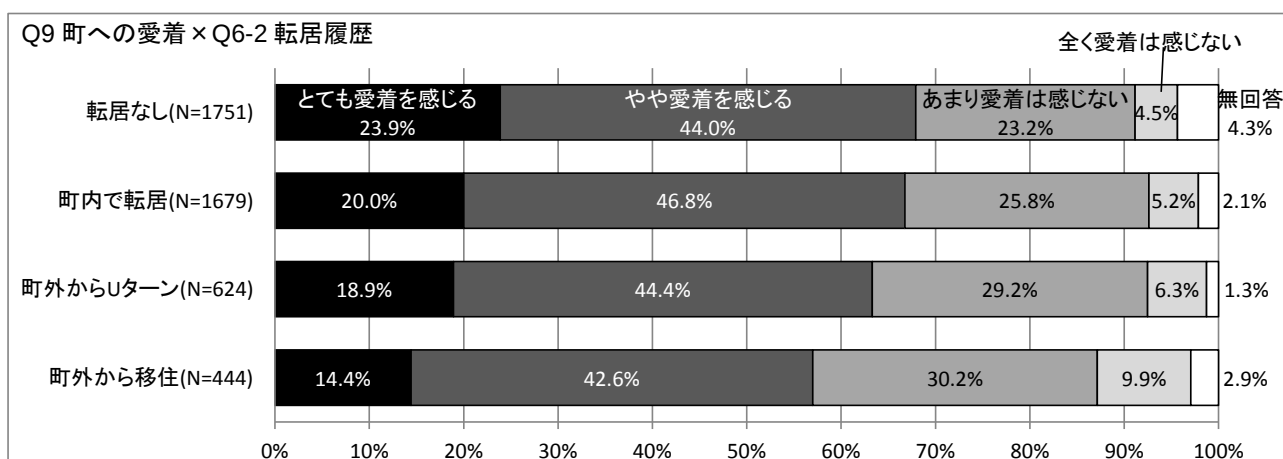


Q9 あなたは、小国町に愛着を感じますか。(〇は1つ)

- 男女とも約2割が「とても愛着を感じる」としており、「やや愛着を感じる」と合わせると、約65%が町に愛着があると回答している。
- 「全く愛着は感じない」は、男女とも5%前後（男性6.2%、女性4.9%）である。
- 世代別でみると、高齢世代になるほど「とても愛着を感じる」の割合が高くなり、70代以上では約3割が町に「とても愛着を感じる」としている。
- 40代までの比較的若い世代でも、6割以上が愛着を感じる（「とても愛着を感じる」＋「やや愛着を感じる」）としているが、愛着は感じない（「あまり愛着は感じない」＋「全く愛着は感じない」）という人も4割近くと、50代以上と比べると愛着が薄い人の割合がやや高くなっている。



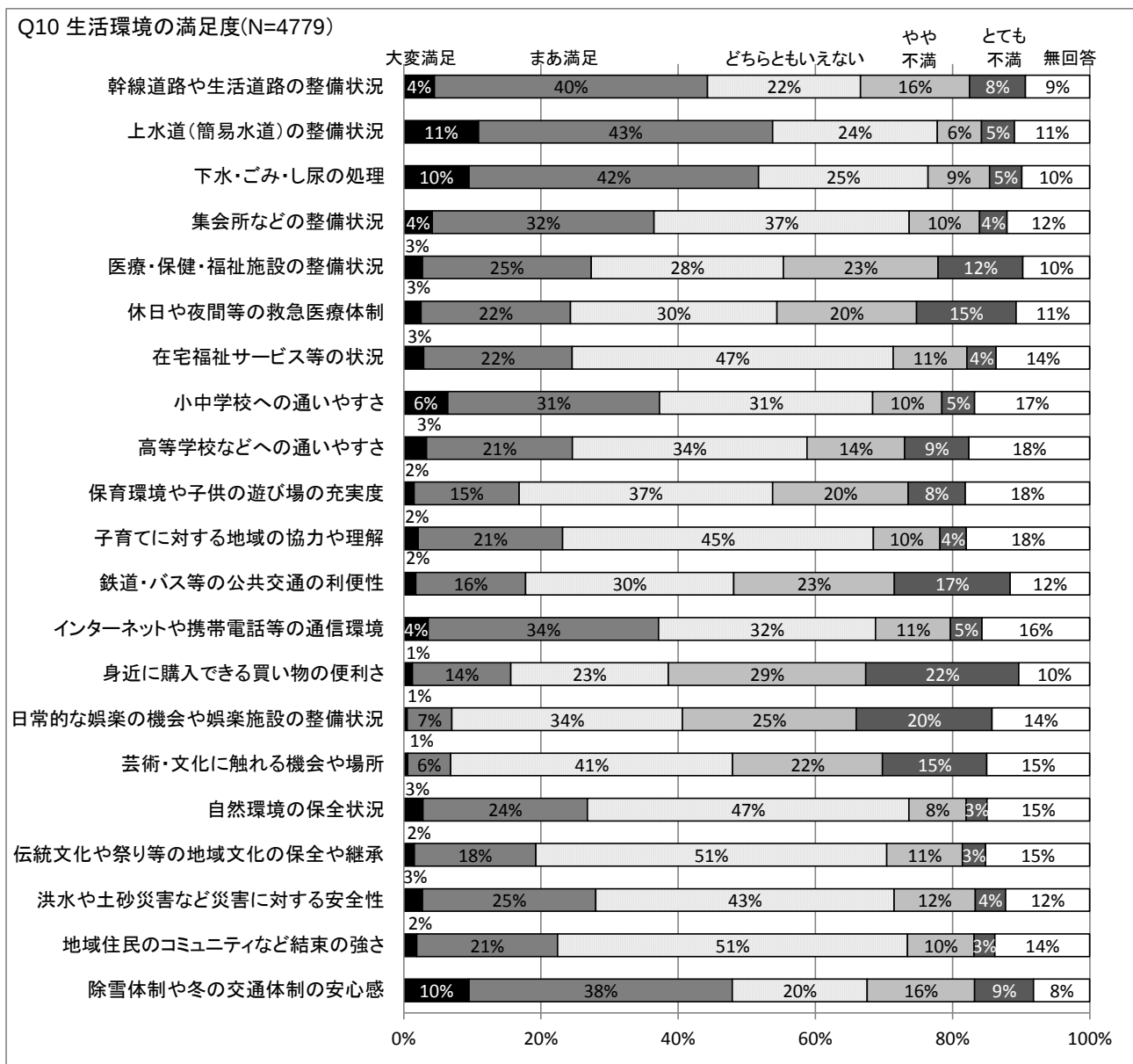
- 町への愛着について転居履歴とのクロスでみると、転居経験がない人が最も町に愛着を感じており、町内で転居した人、町外からUターンした人、町外から移住した人の順に愛着を感じる割合が低くなる（逆に愛着を感じないという割合が高くなる）傾向が見て取れる。



(3) 日常生活の状況

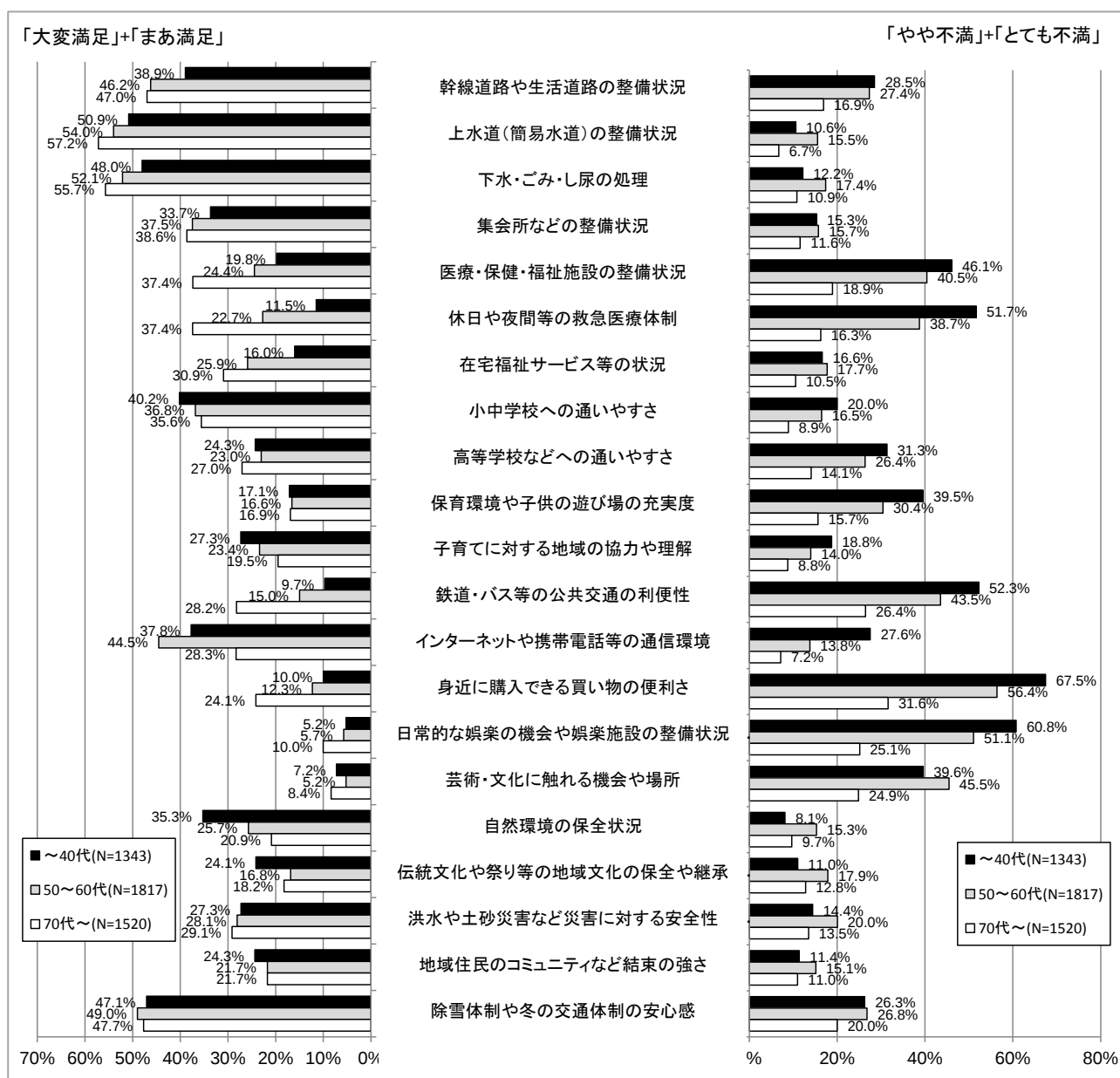
Q10 小国町の生活環境について、あなたの満足度を教えてください。(〇はそれぞれ1つ)

- 日常生活を送る上で、生活環境にどの程度満足しているか項目ごとに5段階で評価してもらったところ、道路や上下水道の整備状況、通信環境、除雪等の冬期交通体制などについては比較的満足度が高くなっている。
- 一方、医療・福祉体制や買い物環境、娯楽施設の整備状況、公共交通等については、満足度が低く、特に「身近に購入できる買い物の便利さ」については「やや不満」と「とても不満」を合わせると半数以上が不満としている。



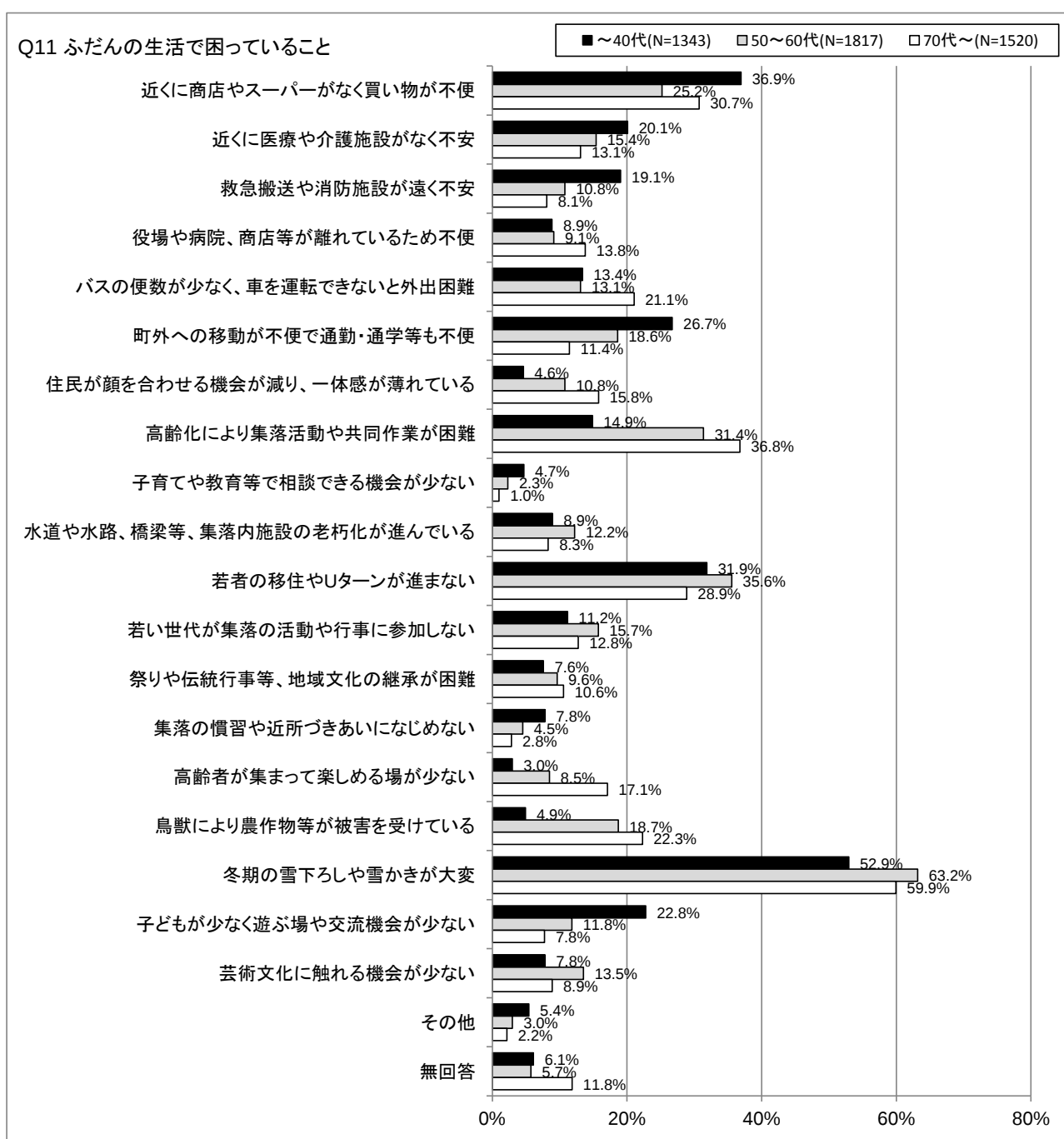
Q10 小国町の生活環境について、あなたの満足度を教えてください。(〇はそれぞれ1つ)

- 世代別に生活環境の満足度を比較すると、上下水道の整備状況や除雪等の冬期交通体制については、いずれの世代も5割前後が満足としている。また、道路の整備状況については、50代以上は5割近くが満足としているのに対して、40代までの比較的若い世代ではやや満足度が低い。
- 医療・福祉体制や公共交通の利便性については年代により評価が大きく分かれた。具体的にみると、「医療・保健・福祉施設の整備状況」や「休日や夜間等の救急医療体制」について、70代以上は4割近くが満足としており、不満とした人の割合よりも高くなっているのに対し、40代までの比較的若い世代では、満足は1～2割程度であり、5割前後が不満としている。同様に、「鉄道・バス等の公共交通の利便性」について、70代以上は満足が3割近くと不満より高いのに対して、40代までの世代では満足は1割に満たず、5割以上が不満としている。
- 「身近に購入できる買い物の便利さ」や「日常的な娯楽の機会や娯楽施設の整備状況」、「保育環境や子供の遊び場の充実度」などについても、若い世代の方がより不満を強く感じている。



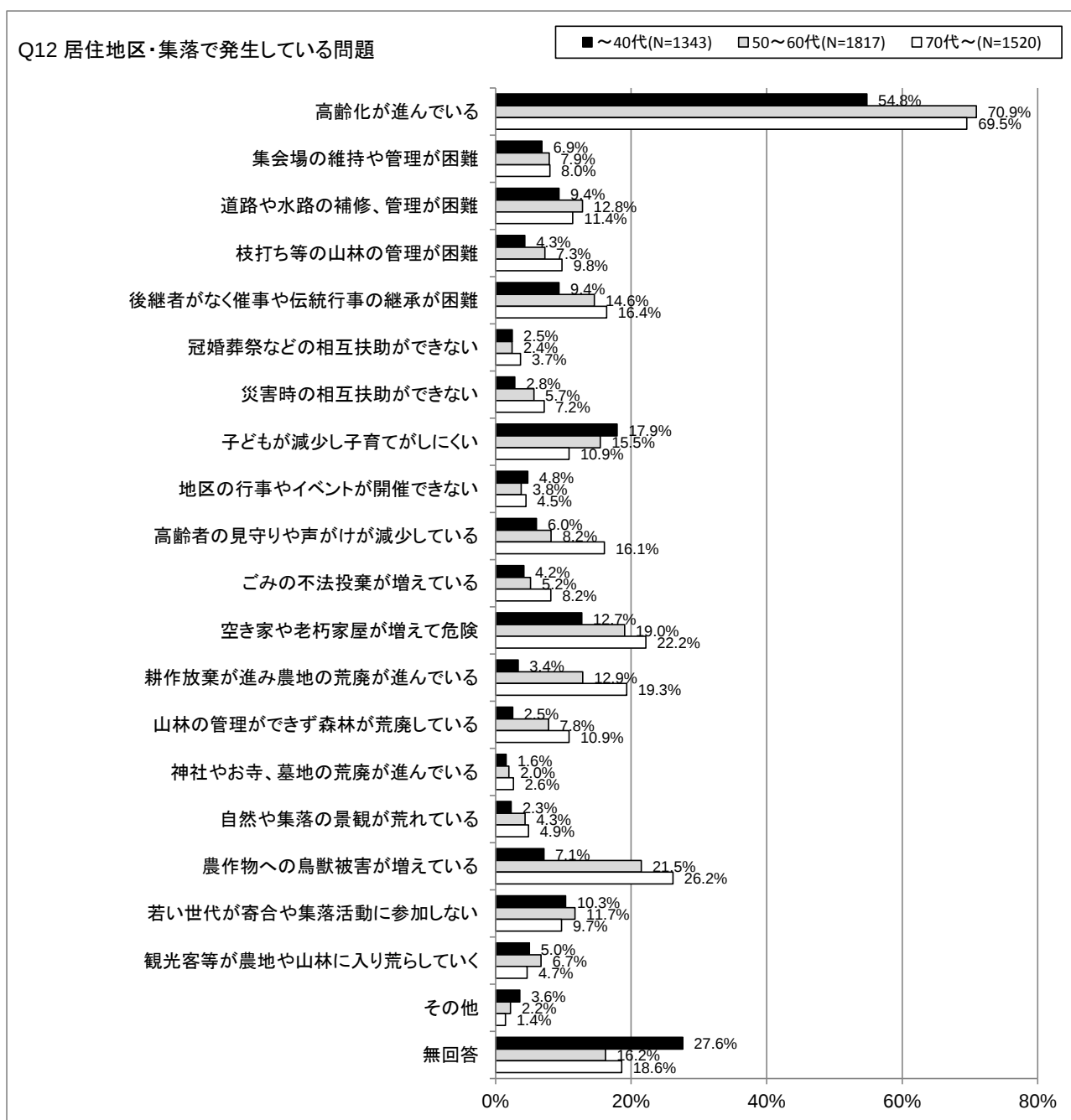
Q11 あなたが、普段の生活で困っていることは何ですか。(〇は5つまで)

- ふだんの生活で困っていることについてみると、いずれの世代も「冬期の雪下ろしや雪かきが大変」が5割以上と第1位に挙げられており、特に50～60代では63.2%、70代以上では59.9%と、高齢世代ほど冬期の雪処理に困っていることが分かる。
- 第2位に挙げられた項目は世代により差がみられる。40歳までの比較的若い世代では、「近くに商店やスーパーがなく買い物が不便」(36.9%)が、50～60代では「若者の移住やUターンが進まない」(35.6%)が、70代以上では「高齢化により集落活動や共同作業が困難」(36.8%)がそれぞれ第2位となっている。
- また、医療体制や通勤・通学に関する不安・不便さは若い世代から、地域コミュニティの一体性の低下や高齢者が集う場の少なさについては高齢世代からより多く指摘されている。



Q12 あなたの地区や集落で発生している問題は何ですか。(〇は5つまで)

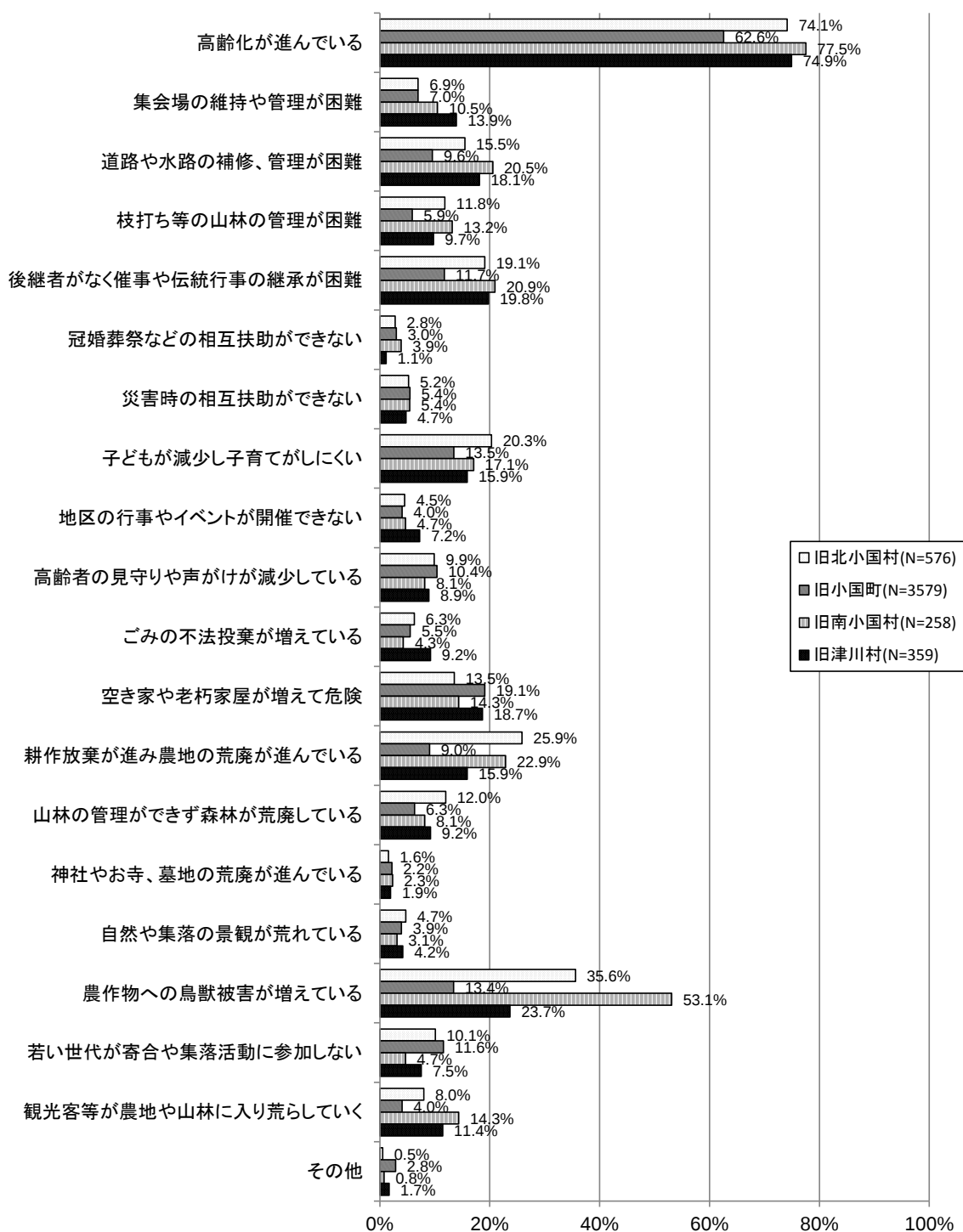
- 居住地区・集落で発生している問題として指摘された事項をみると、いずれの世代でも「高齢化が進んでいる」が突出して高いが、50代以上の世代では7割前後と特に高くなっている。
- 50代以上では、これに次いで「農作業への鳥獣被害が増えている」が第2位に挙げられているのに対して、40代までの比較的若い世代では「子どもが減少し子育てがしにくい」が17.9%と2番目に高い割合となっている。



Q12 あなたの地区や集落で発生している問題がありますか。(〇は5つまで)

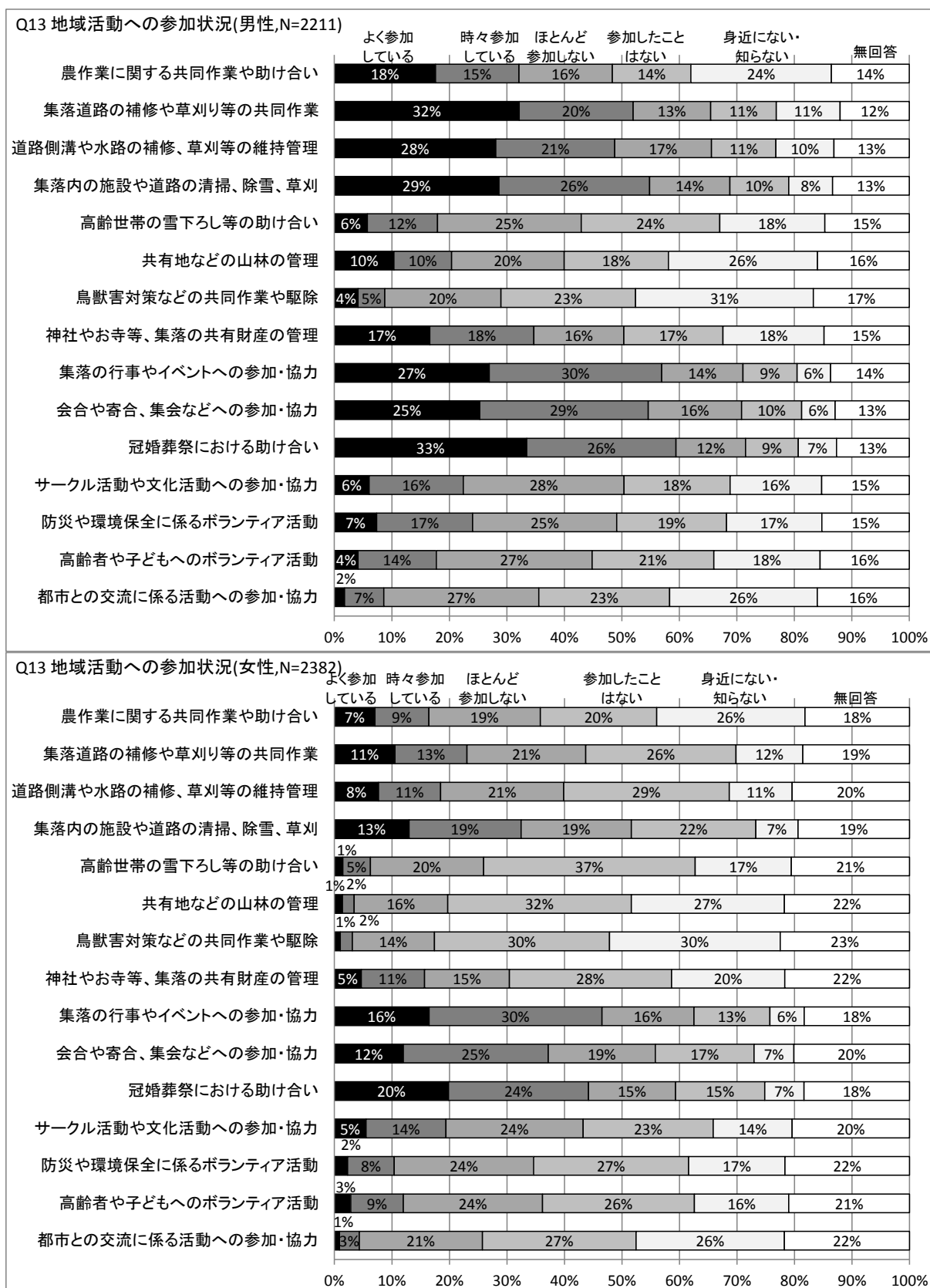
- 居住地区・集落で発生している問題を旧町村別に比較すると、「高齢化が進んでいる」は旧小国町以外の旧3村エリアでは7割超の住民から問題として指摘されている。
- 「農作物への鳥獣被害が増えている」については、旧南小国村で53.1%と半数以上から指摘されており、旧北小国村でも35.6%と比較的高い割合となっている。

Q12 居住地区・集落で発生している問題×Q6 現在地(旧町村)



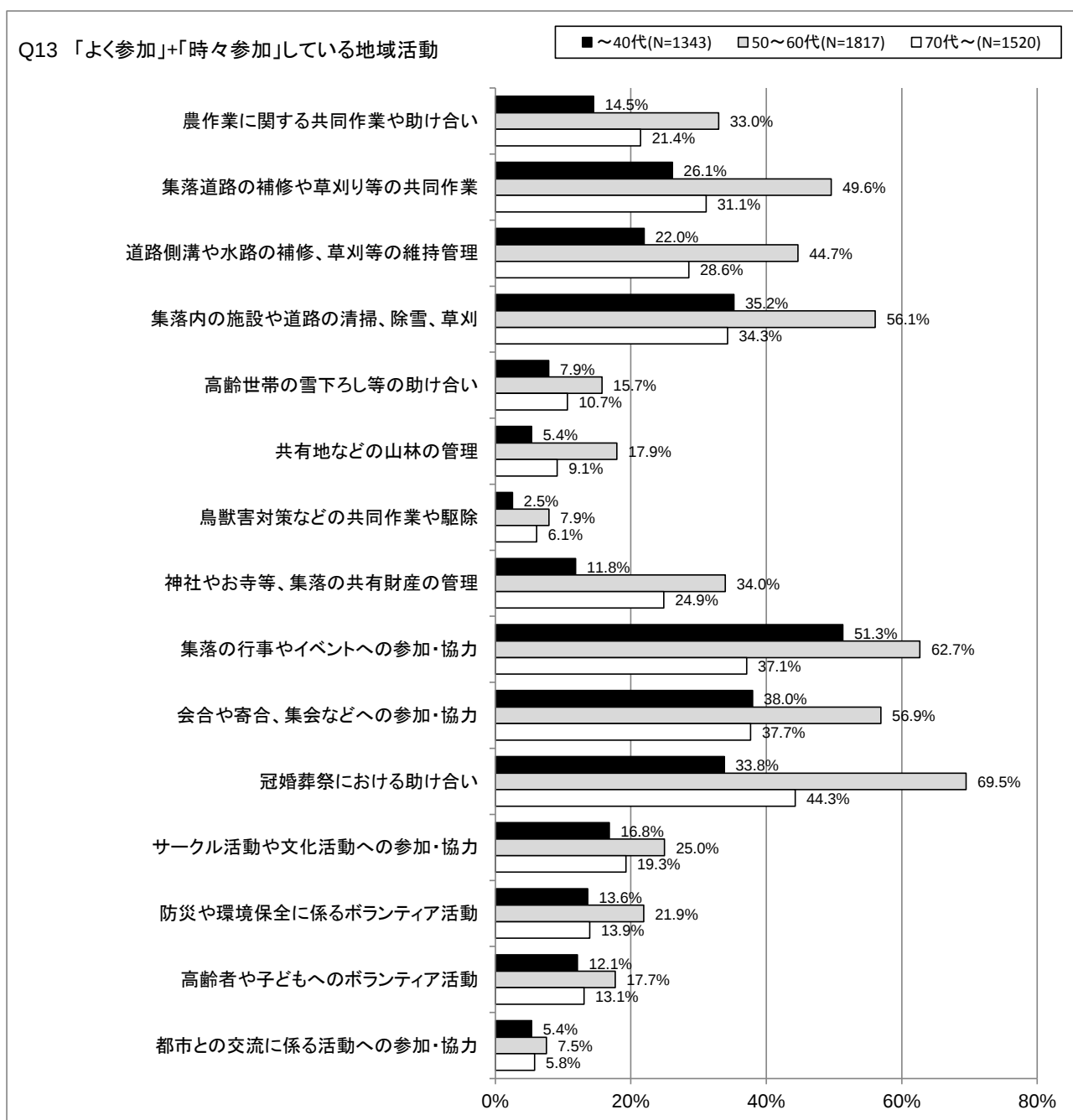
Q13 あなたご自身は、次の地域活動に参加していますか。(〇はそれぞれ1つ)

- 冠婚葬祭における助け合いや集落道路・側溝・水路等の補修・草刈り、集落の行事や会合・集会などは比較的多くの住民が参加しており、総じて男性の方が参加割合が高い。



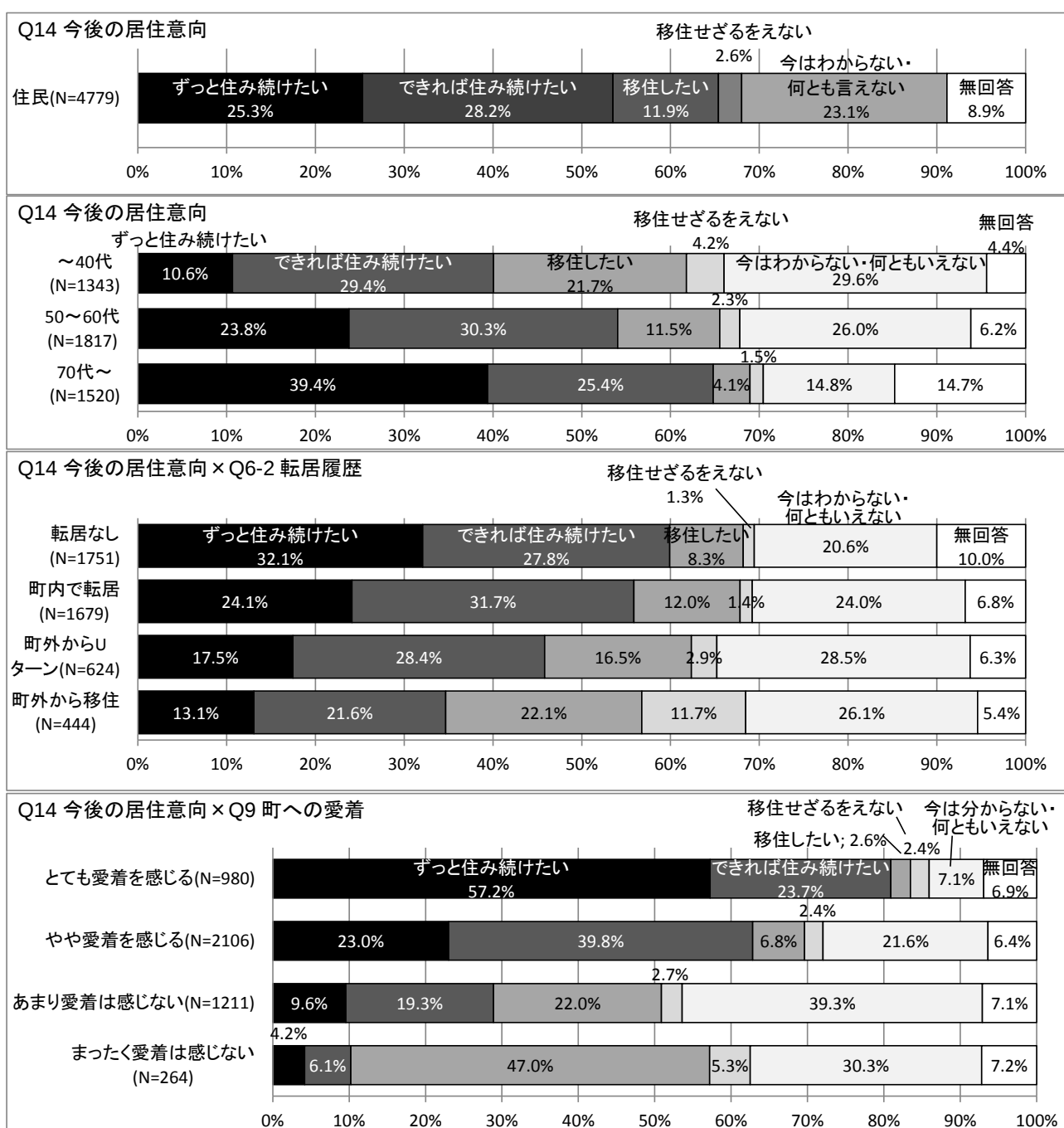
Q13 あなたご自身は、次の地域活動に参加していますか。(〇はそれぞれ1つ)

- それぞれの地域活動に対して参加している（「よく参加している」又は「時々参加している」）割合を世代別で比較すると、多くの地域活動について 50～60 代が中心となって維持していることが分かる。
- 集落の行事やイベントについては 40 代までの比較的若い世代も半数以上が参加している一方で、冠婚葬祭については高齢世代を中心に行われており、70 代以上も 4 割強が参加している。



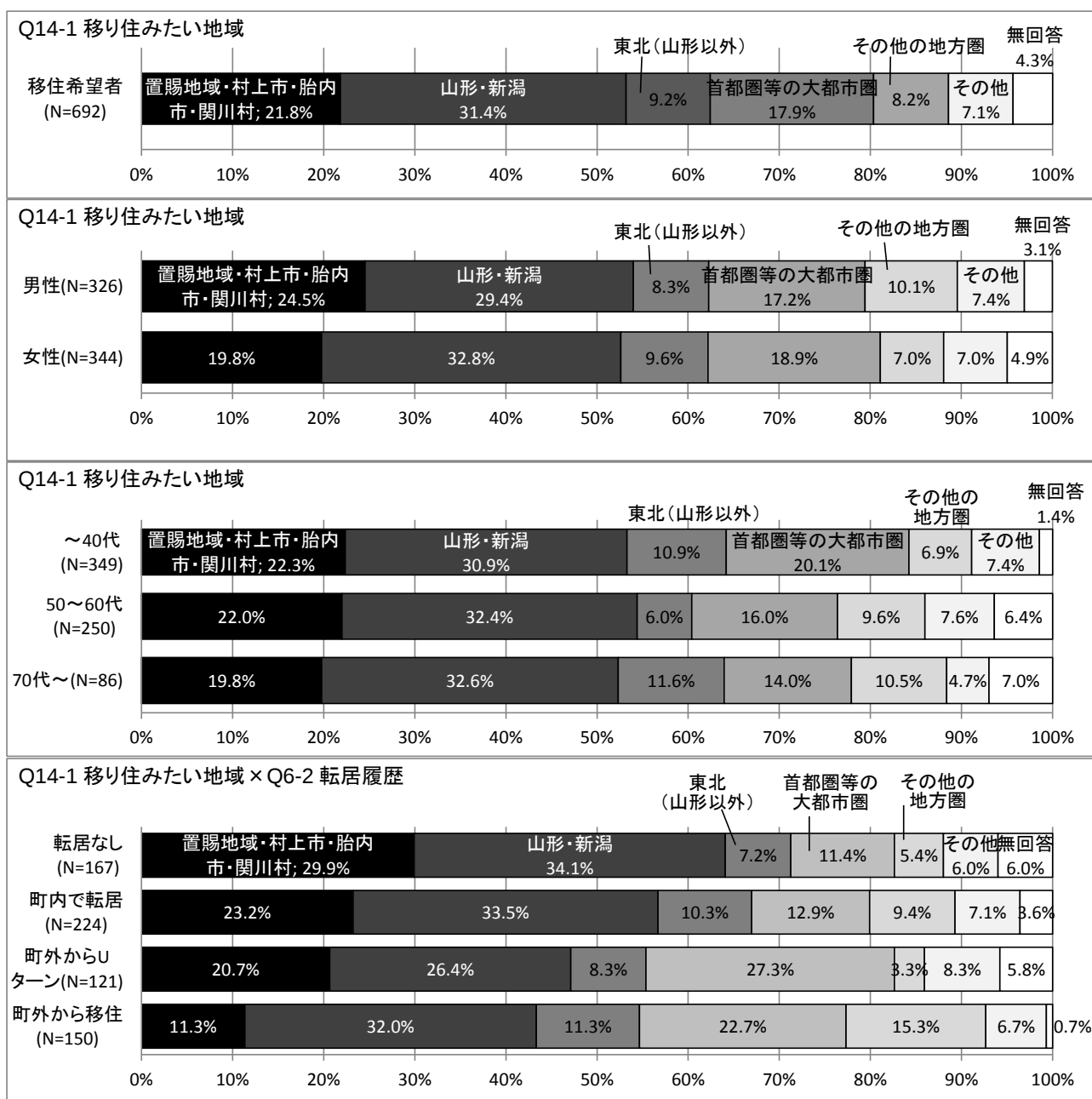
Q14 あなたは、将来も小国町に住み続けたいですか。(○は1つ)

- 半数以上の住民は小国町に住み続けたい（「ずっと住み続けたい」＋「できれば住み続けたい」と考えている。
- 居住継続意向は高齢世代になるほど強く、逆に 40 代までの比較的若い世代の約 25%は「移住したい」又は「移住せざるをえない」、約3割は「今はわからない・何ともいえない」としている。
- 転居履歴とのクロスでみると、転居経験がない人の約3分の1は「ずっと住み続けたい」としており、「できれば住み続けたい」と併せると約6割が住み続けたいとしている一方、町外から移住してきた人は2割強が「移住したい」としている。
- 町への愛着の有無と定住意向の相関は非常に強く、「とても愛着を感じる」人の6割は「ずっと住み続けたい」としているが、「全く愛着は感じない」人の半数近くは「移住したい」としている。



Q14-1 Q14で③または④と答えた方にお聞きします。移り住みたい地域を教えてください。(〇は1つ)

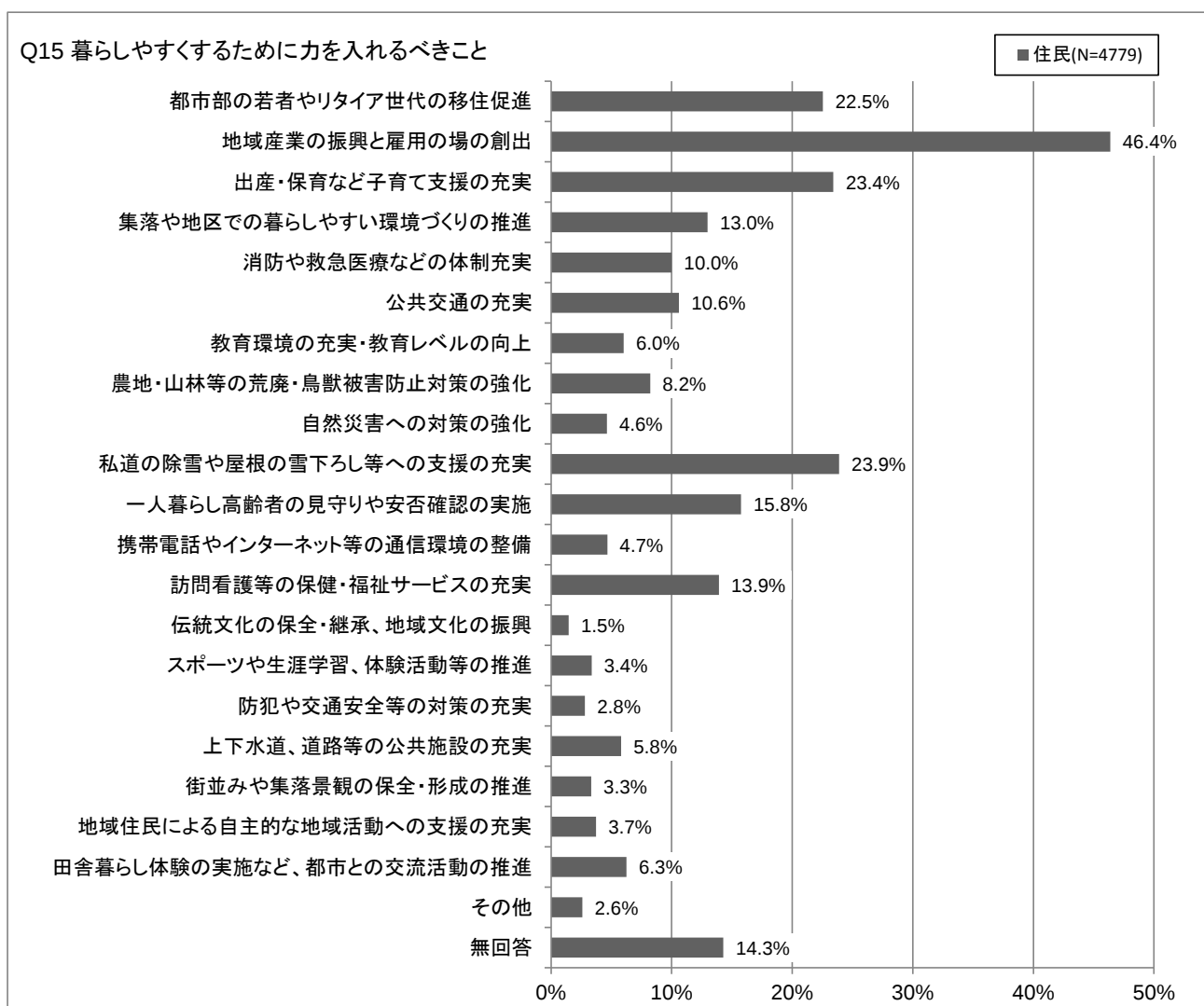
- 「移住したい」又は「移住せざるを得ない」と回答した人に対し、希望する移住先を聞いたところ、「置賜地域・新潟県村上市・胎内市・関川村」(21.8%)、「それ以外の山形県・新潟県」(31.4%)が多く挙げられている。
- 40代までの比較的若い世代では、「首都圏等の大都市圏」への移住を希望する割合が約2割と、他の世代と比べるとやや高くなっている。
- 転居履歴とのクロスでみると、町外への転居経験がない人は、近隣市町村あるいは山形県・新潟県と比較的町に近い地域への移住を考えているのに対して、町外から転入した人は、近隣地域への移住よりも首都圏等の大都市圏への移住を望む人が多いことが分かる。



(4) これからのまちづくりについて

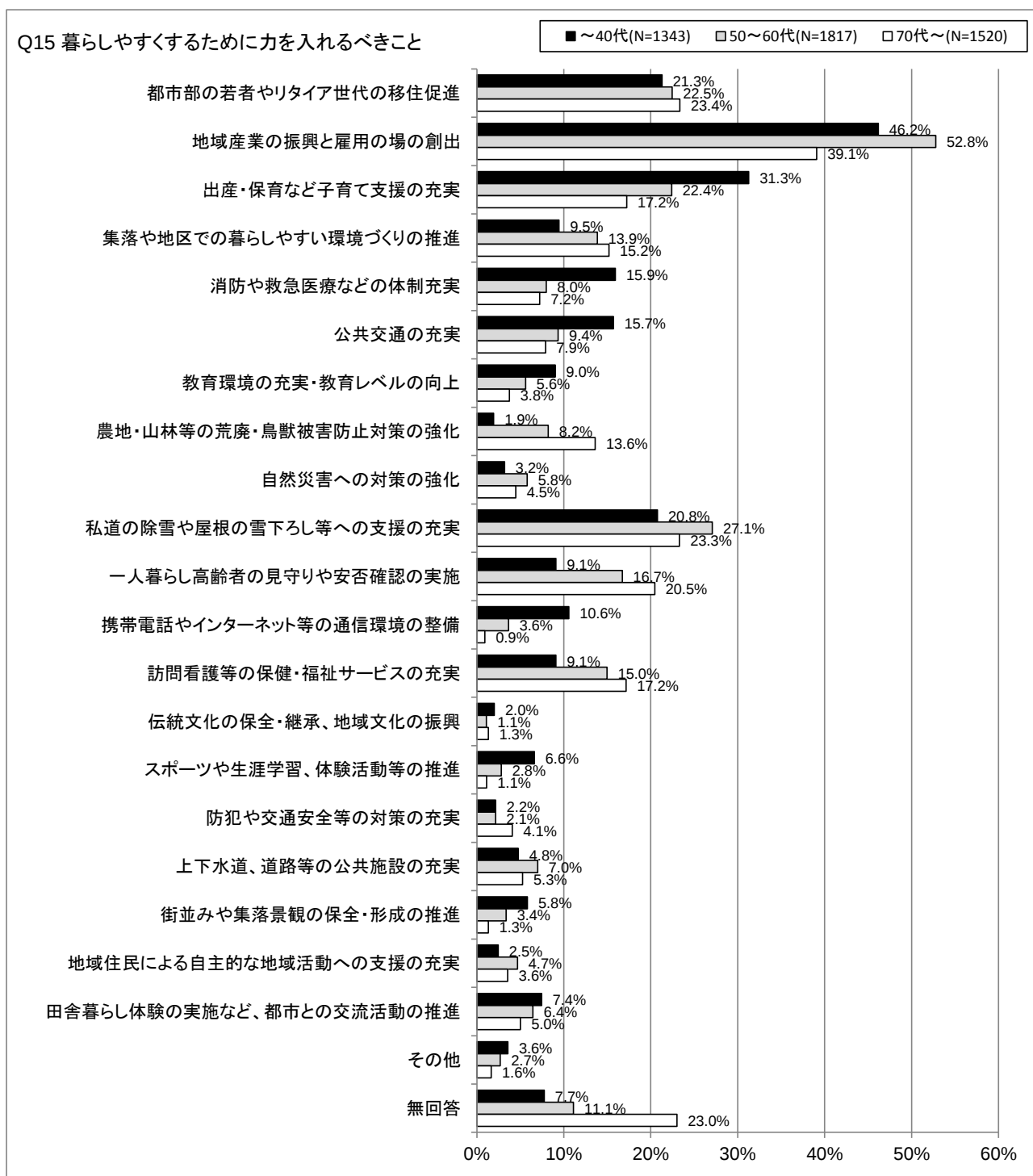
Q15 今後、小国町で暮らしやすくしていくためには、どのようなことに力を入れるべきとお考えですか。(〇は3つまで)

- 町で暮らしやすくしていくために力を入れるべきこととして、上位に挙げられた項目を見ると、第1位が「地域産業の振興と雇用の場の創出」(46.4%)、第2位が「私道の除雪や屋根の雪下ろし等への支援の充実」(23.9%)、第3位が「出産・保育など子育て支援の充実」(23.4%)、第4位が「都市部の若者やリタイア世代の移住促進」(22.5%)となっている。
- これらは、地方版総合戦略で掲げるべき4つの基本目標に合致しており(第1位=しごとづくり、第2位=安全な暮らしづくり、第3位=結婚・出産・子育て支援、第4位=人の流れづくり)、総合戦略の柱となる政策と同様の認識を住民が持っている結果が示されている。



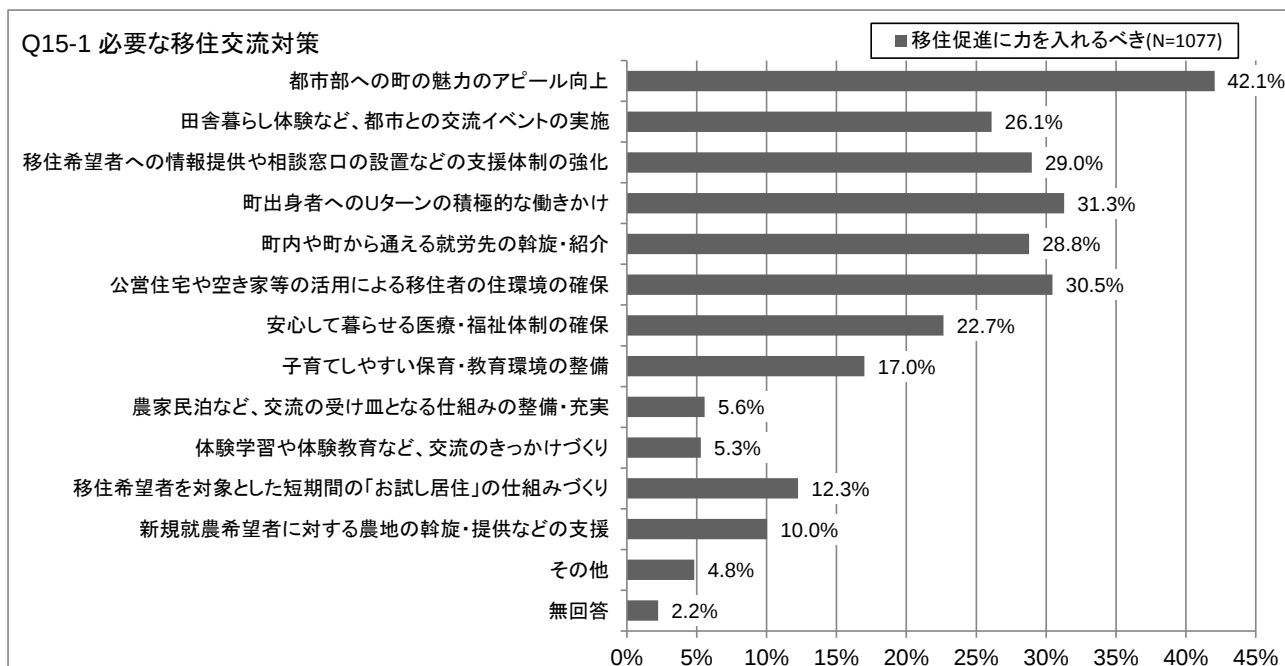
Q15 今後、小国町で暮らしやすくしていくためには、どのようなことに力を入れるべきとお考えですか。(〇は3つまで)

- 世代別で比較すると、「地域産業の振興と雇用の場の創出」についてはいずれの世代でも第1位に挙げられているが、特に50～60代では52.8%と高い割合となっている。
- 40代までの比較的若い世代では「出産・保育など子育て支援の充実」が3割強と高齢世代より高く、消防・医療体制や公共交通の充実についても若い世代の方が高い割合となっている。
- 一方、高齢世代では、「一人暮らし高齢者の見守りや安否確認の実施」や「訪問看護等の保健・福祉サービスの充実」を求める声がより多く聞かれている。



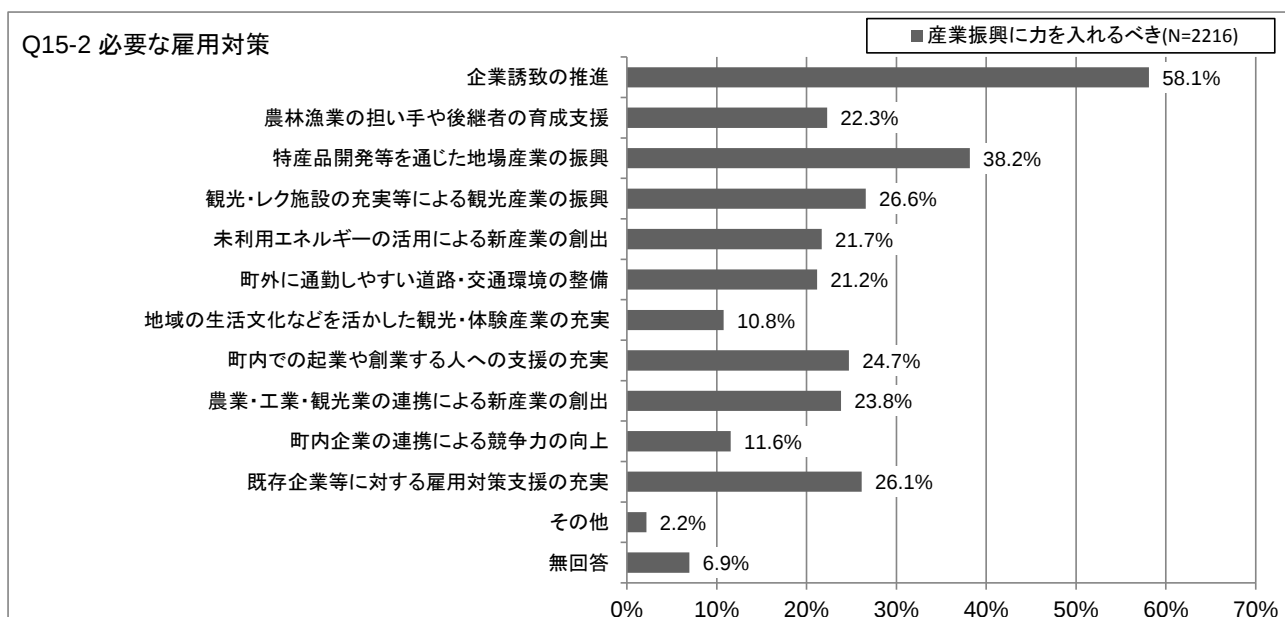
Q15-1 Q15で①を選択した方に伺います。都市部から小国町への移住や交流を活発にしていくためにはどのような対策が必要とお考えですか。(〇は3つまで)

- 総合戦略の柱ごとに必要な対策を具体的に聞いたところ、まず「ひとの流れ（移住交流対策）」については、「都市部への町の魅力のアピール向上」が最も必要とされ、次いで「町出身者への U ターンの積極的な働きかけ」が高い割合となった。



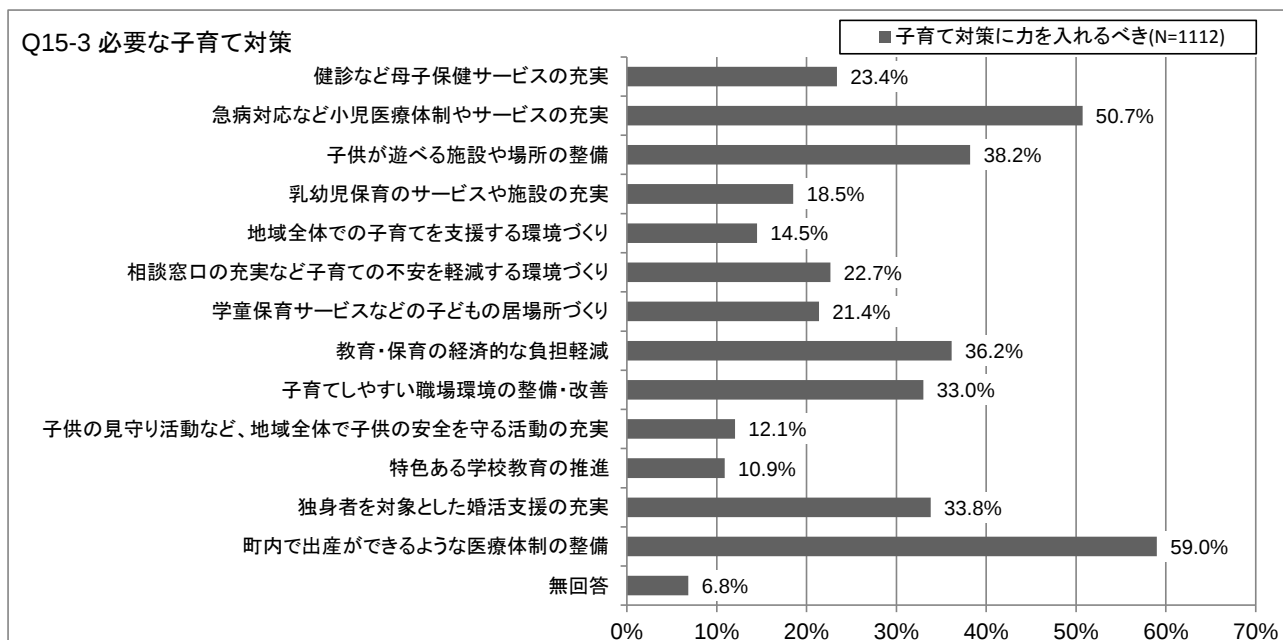
Q15-2 Q15で②を選択した方に伺います。今後、小国町で雇用の場を増やしていくためにはどのような対策が必要とお考えですか。(〇は3つまで)

- 「しごとづくり（雇用対策）」に関しては、「企業誘致の推進」が 58.1%と最も必要とされたほか、「特産品開発等を通じた地場産業の振興」も 4 割近くから必要な対策として挙げられている。



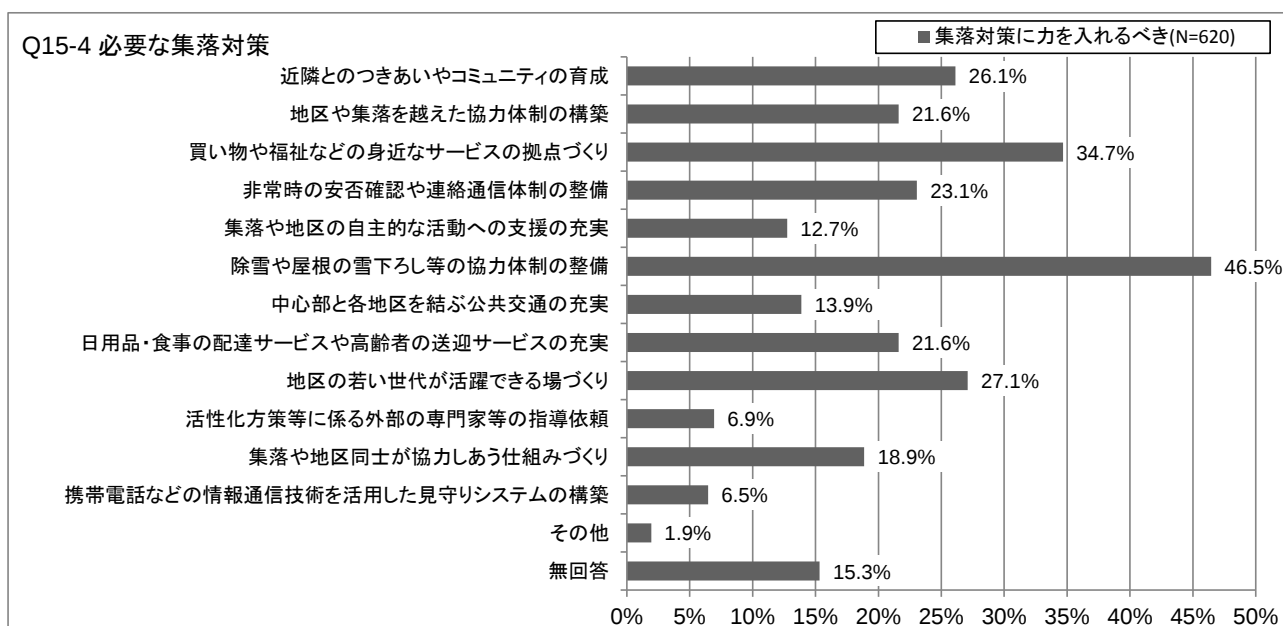
Q15-3 Q15で③を選択した方に伺います。小国町での出産や子育ての推進にはどのような対策が必要とお考えですか。(〇は3つまで)

- 「子育て対策」についてみると、「町内で出産ができるような医療体制の整備」が 59.0%と第1位に挙げられているほか、「急病対応など小児医療体制やサービスの充実」を求める声も半数以上～挙げられている。



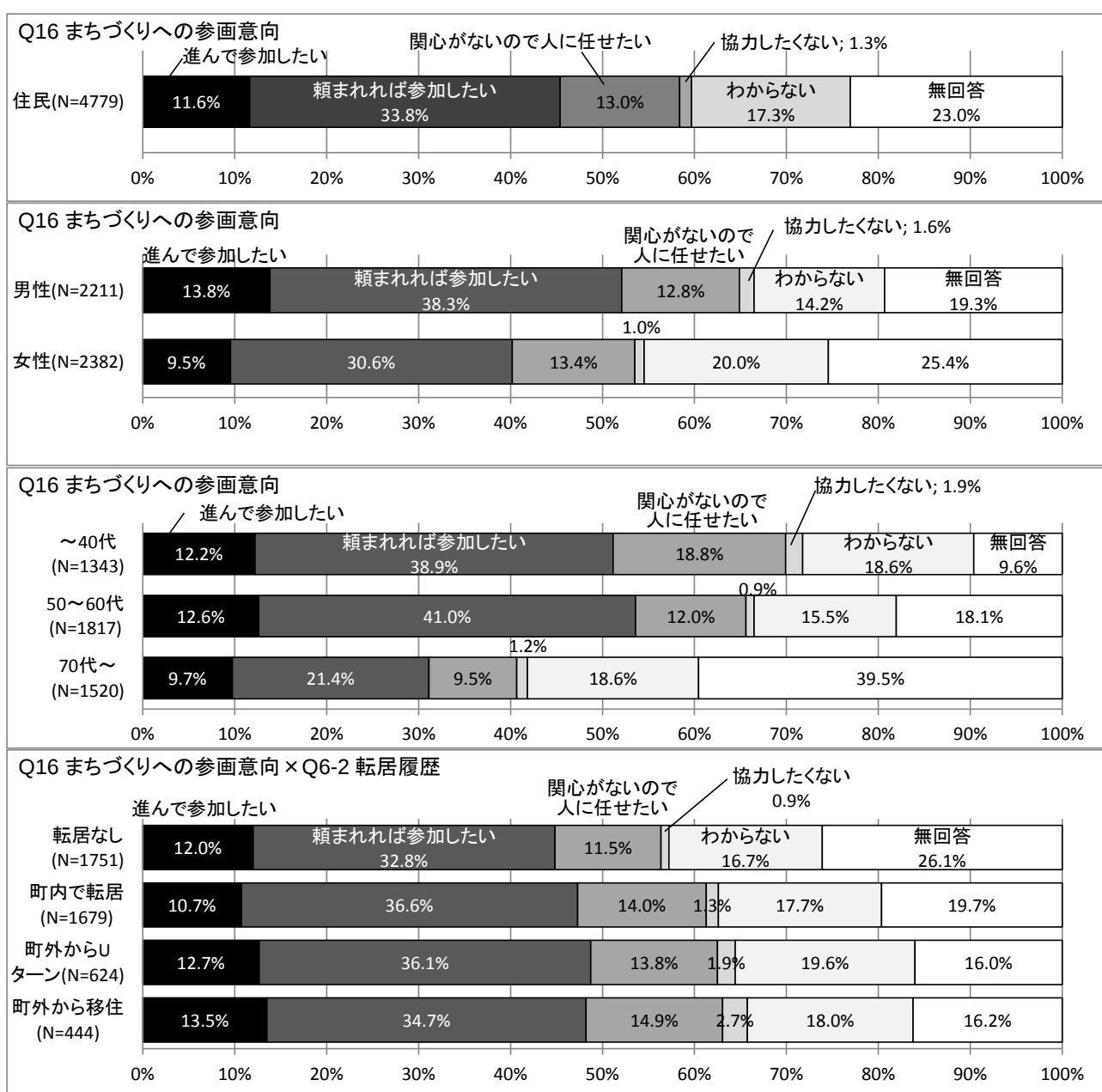
Q15-4 Q15で④を選択した方に伺います。地区や集落で住みやすくするためにはどのような対策が必要とお考えですか。(〇は3つまで)

- 「まちづくり（集落対策）」に関しては、「除雪や屋根の雪下ろし等の協力体制の整備」が第1位に挙げられているほか、国の総合戦略の主要プロジェクトに位置づけられている「小さな拠点」づくりに相当する対策（買い物や福祉などの身近なサービスの拠点づくり）を望む声も高い。



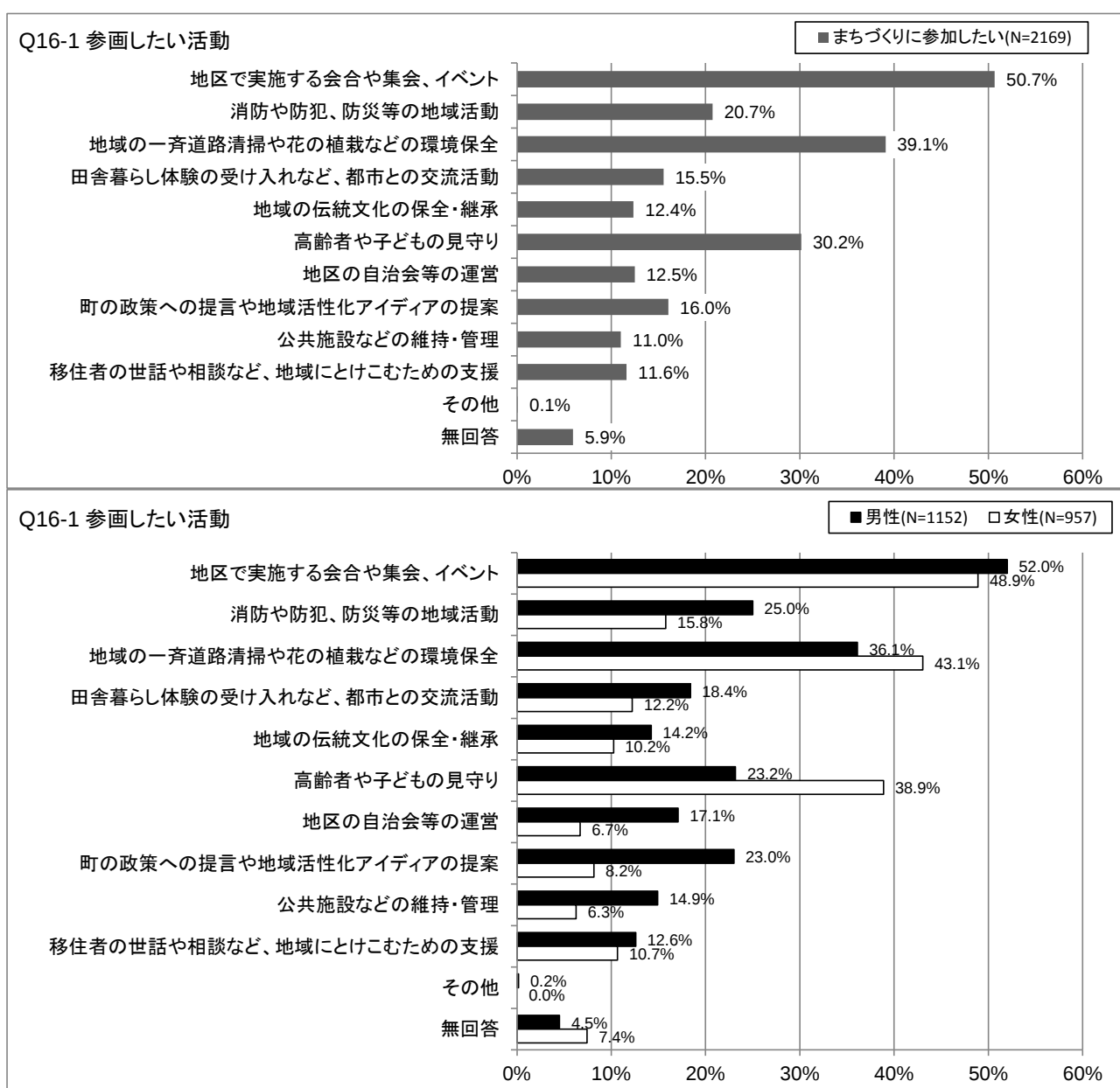
Q16 これからの地域づくりに向けては住民参加が求められていますが、これについてあなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

- まちづくりへの住民参加に対する考えとして、1割強は「進んで参加したい」、3割強は「頼まれれば参加したい」としており、約45%の住民は今後のまちづくりに参画意向を示している。
- 性別で比較すると、男性の方が参画意向は高く、5割以上が参加したいとしている。
- 世代別で比較すると、「進んで参加したい」と「頼まれれば参加したい」と合わせた割合は50～60代で最も高くなっている。また、40代までの比較的若い世代では、「進んで参加したい」が12.2%と比較的高い一方で、「関心がないので人に任せたい」も18.8%と高く、関心の高い層と低い層に分かれている。
- 転居履歴とのクロスでみると、「進んで参加したい」という割合は転居経験の有無に関わりなく、むしろ町外から移住した人で13.5%と最も高くなっている。



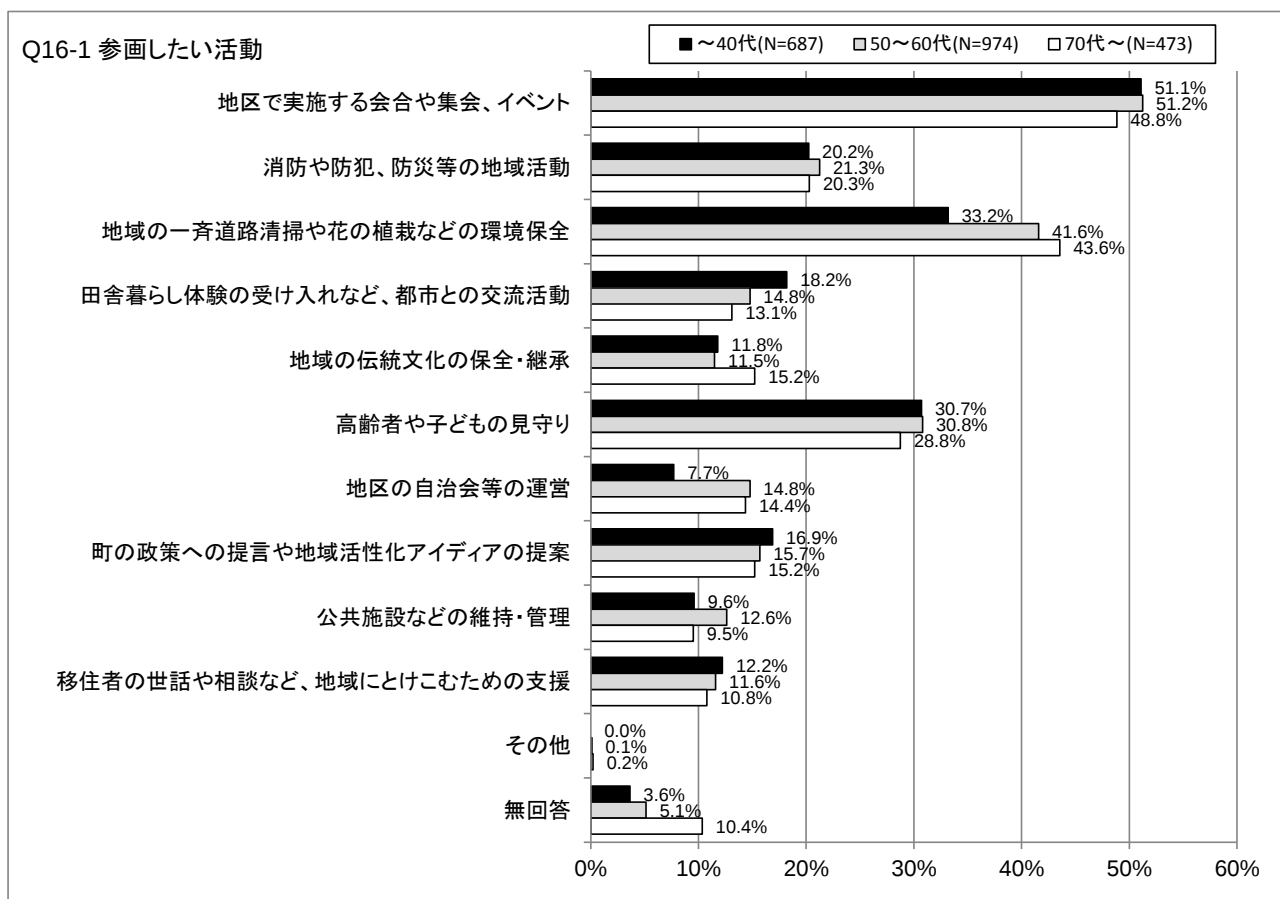
Q16-1 Q16で①または②を選択した方に伺います。どのような活動に参加したいですか。(〇はいくつでも)

- 今後のまちづくり活動に参加したいと回答した人に対し、参画したい活動の種類を聞いたところ、「地区で実施する会合や集会、イベント」が最も多くから挙げられており、次いで「地域の一斉道路清掃や花の植栽などの環境保全活動」、「高齢者や子どもの見守り」などが多くなっている。
- 男女で比較すると、「地区で実施する会合や集会、イベント」は男女とも5割前後と高いが、「地域の一斉道路清掃や花の植栽などの環境保全活動」や「高齢者や子どもの見守り」については女性においてより参画意向が高くなっている。
- 男女で最も差が大きかった活動は、「町の政策への提言や地域活性化アイデアの提案」であり、男性は2割強が参画意向を示している。



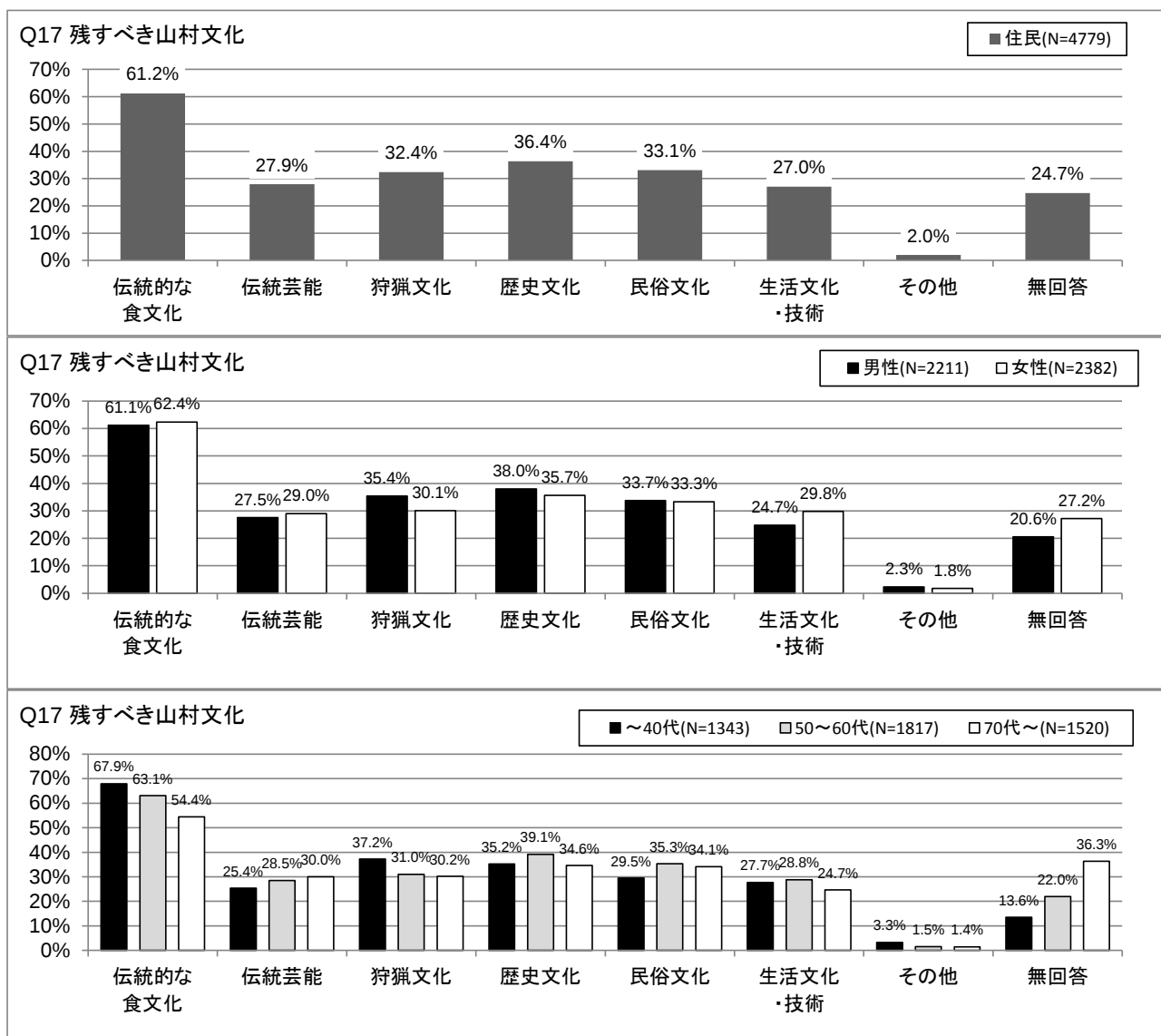
Q16-1 Q16で①または②を選択した方に伺います。どのような活動に参加したいですか。(〇はいくつでも)

- 参加したい地域活動について世代別で比較すると、「地区で実施する会合や集会、イベント」についてはどの世代でも高い参画意向が示されているのに対し、環境保全活動については高齢世代の方がより参画意向が高くなっている。
- 「田舎暮らし体験の受入れなど、都市との交流活動」や「町の政策への提言や地域活性化アイデアの提案」については、40歳までの比較的若い世代が高齢世代より高い参画意向を示している。



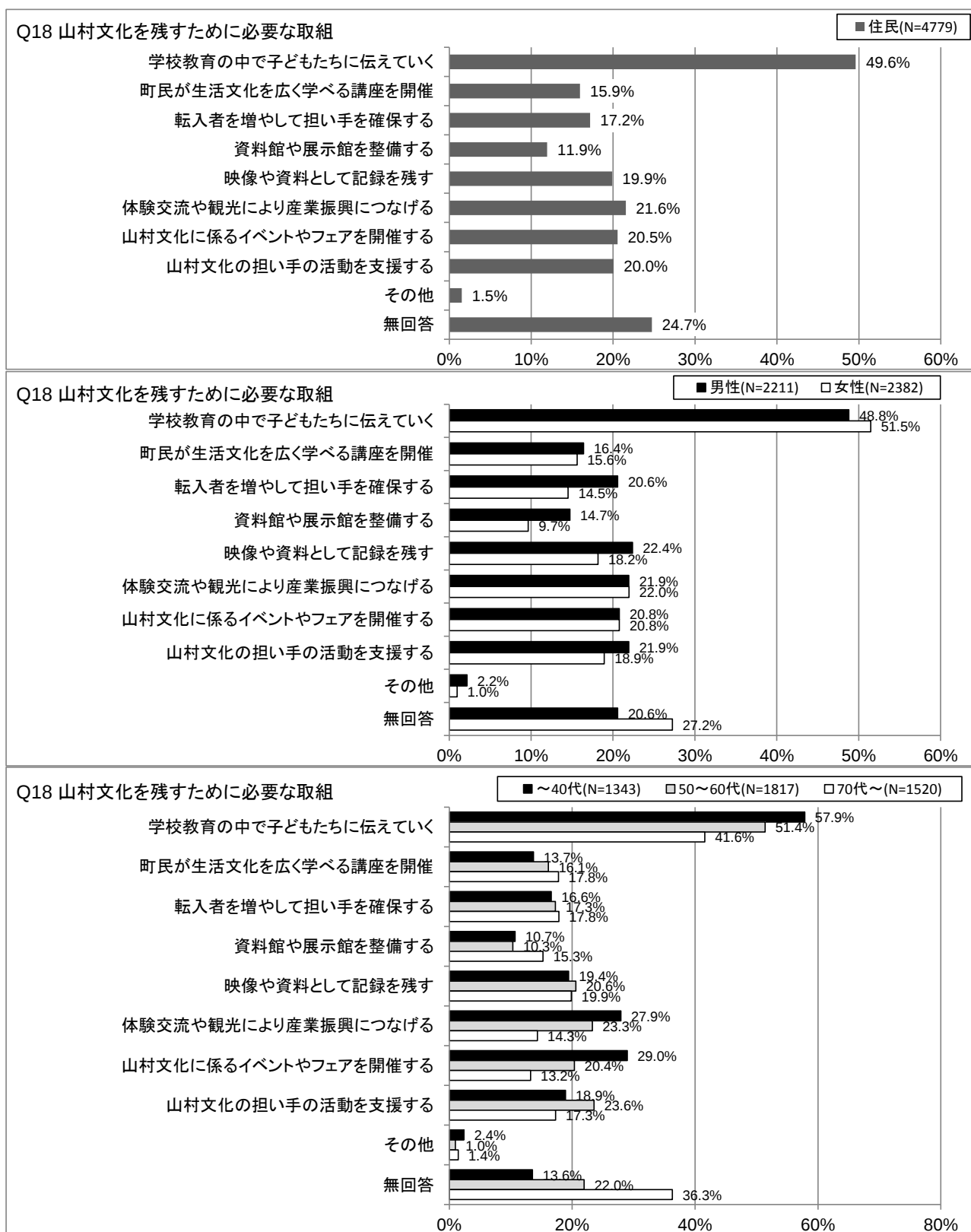
Q17 小国町には全国的にみても独特な山村文化があります。こうした小国町の文化のうち、あなたが後世に残したいと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

- 小国町の魅力を高めるためには独特の山村文化の保全・継承が重要となるが、住民の6割強は、後世に残すべき小国町独特の山村文化として「伝統的な食文化」を挙げており、他の項目を大きく引き離している。
- 性別で比較しても大きな違いは見られないが、世代別でみると、「伝統的な食文化」は若い世代の方がより残すべき山村文化としての評価が高くなっている。



Q18 小国町独自の山村文化を後世に継承していくためにはどのような取組が必要とお考えですか。(〇はいくつでも)

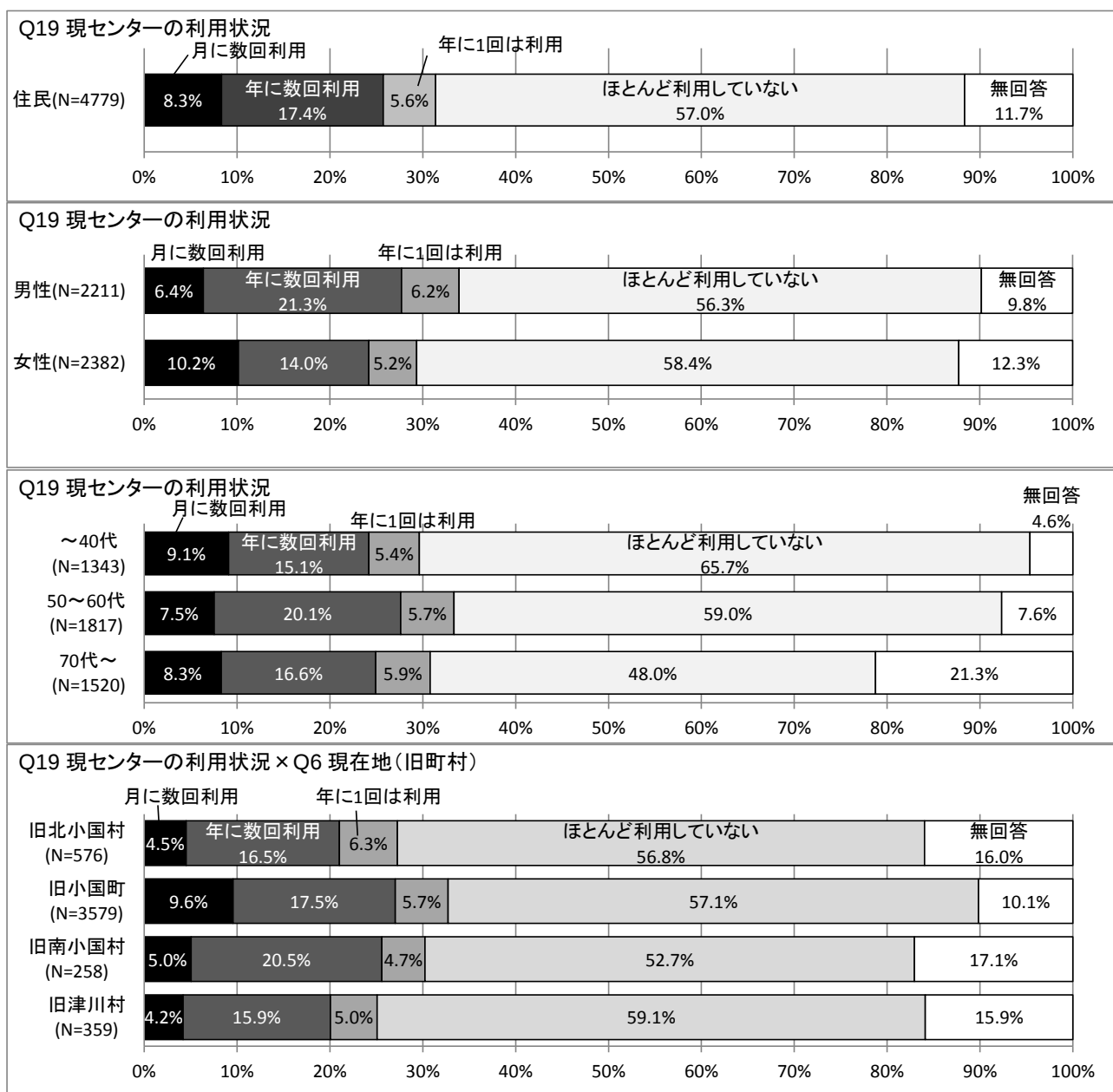
- 町独自の山村文化を後世に残すために必要な取組としては、「学校教育の中で子どもたちに伝えていく」が約半数から挙げられており、女性の方が、また若い世代の方がその割合は高い。



(5) まちづくりの拠点施設について

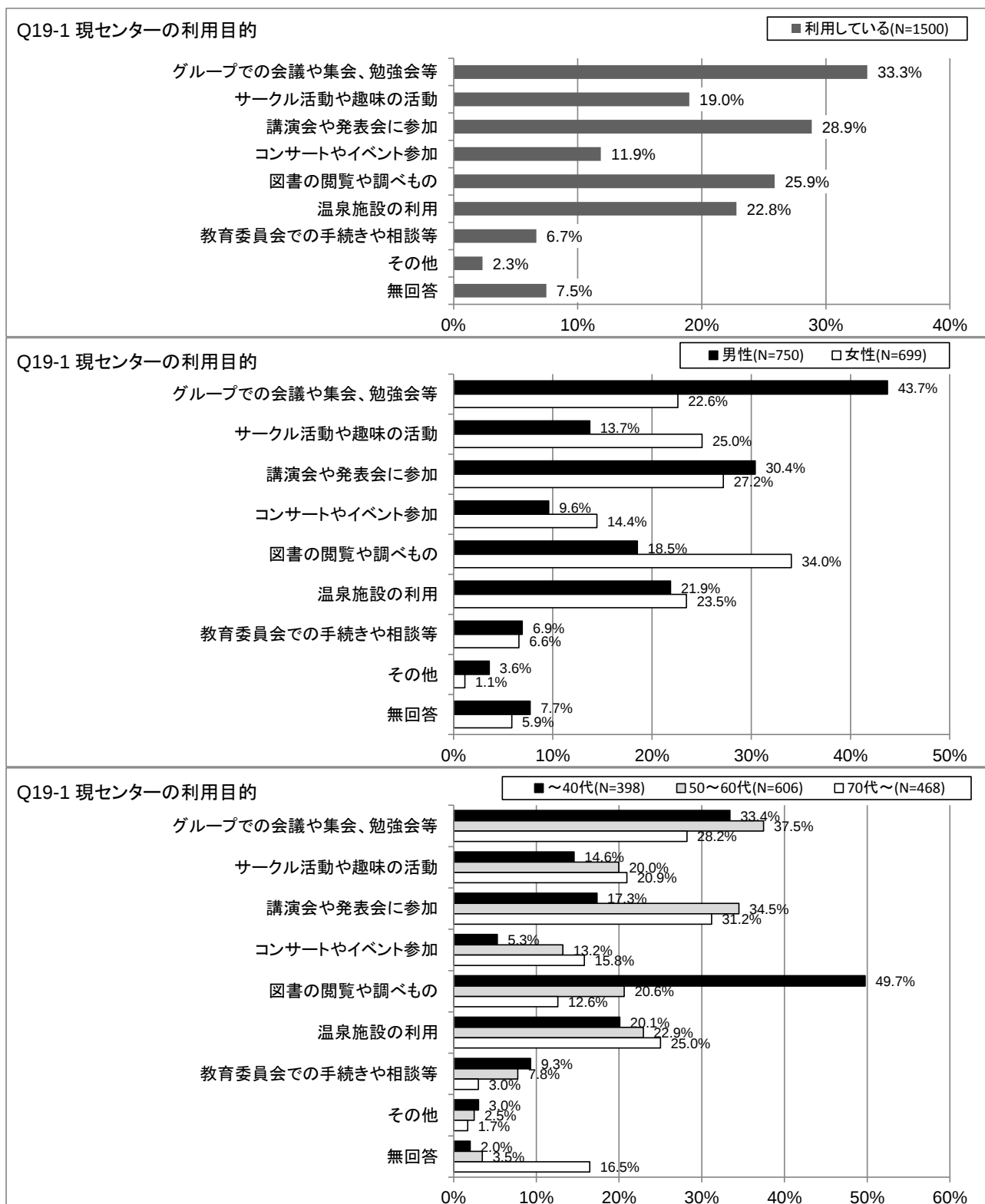
Q19 あなたは、おぐに開発総合センターをどのくらい利用していますか。(〇は1つ)

- 現センターを年に1回以上利用している町民は約35%で、6割近くは「ほとんど利用していない」としている。
- 「月に数回程度」利用しているのは1割弱であり、その割合は女性の方が高い。
- 世代別でみても、利用状況にあまり大きな違いは見られない。
- 居住地区別でみると、現センターが立地する旧小国町の住民が最も利用頻度が高く、「月に数回利用」も1割近くみられる。



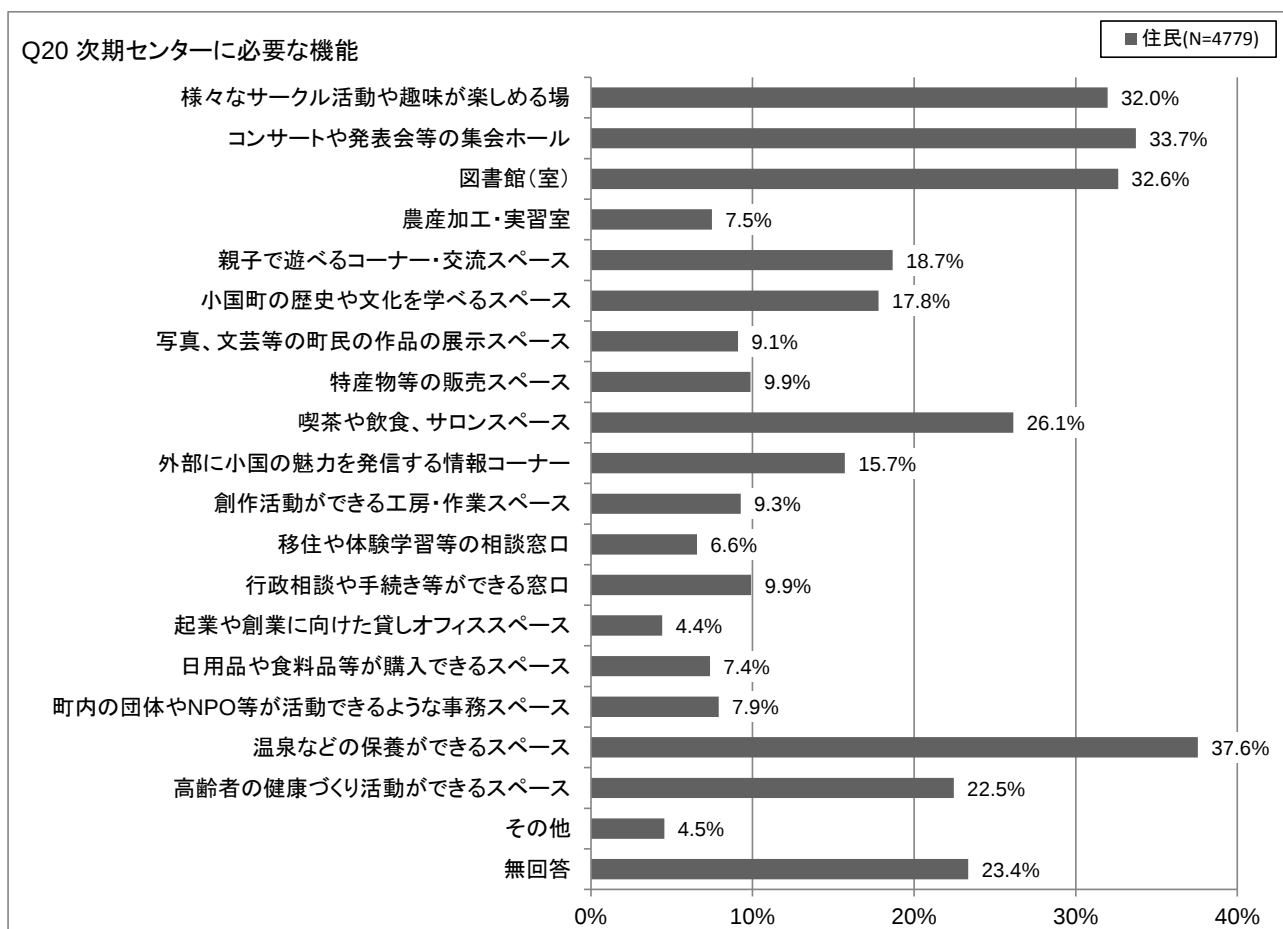
Q19-1 Q19で①～⑥を選択した方に伺います。どのような目的で利用していますか。(〇は3つまで)

- 現センターの利用目的は男女で異なり、男性は「グループでの会議や集会、勉強会等」が、女性は「図書の閲覧や調べもの」が多くなっている。
- 世代別でみると、40代までの比較的若い世代は「図書の閲覧や調べもの」での利用が多く、50代以上になると「講演会や発表会に参加」が多くみられる。



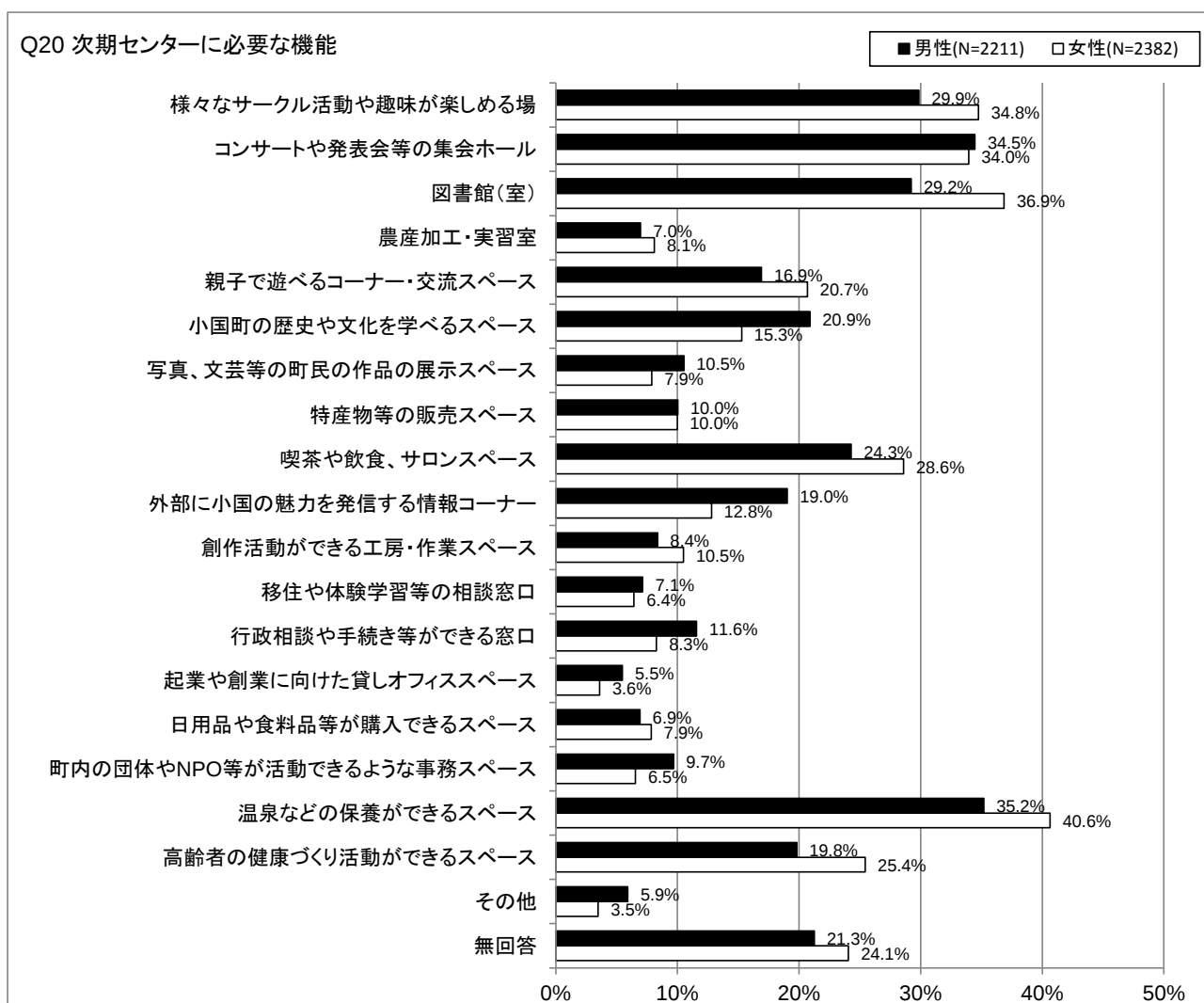
Q20 これからのまちづくりの拠点施設として、おぐに開発総合センターを建替えるとした場合、どのような機能が必要とお考えですか。(〇はいくつでも)

- 現センターに代わるまちづくりの拠点施設（次期センター）にどのような機能が求められているかをみると、最も必要とされている機能は「温泉等の保養スペース」（37.6%）であった。
- これに次いで、「コンサートや発表会等の集会ホール」や「図書館（室）」、「様々なサークル活動や趣味が楽しめる場」など3割超から必要な機能として挙げられている。
- 上位に挙げられた機能のうち、現センターにない機能として、「喫茶や飲食、サロンスペース」（26.1%）が第5位に挙げられている。



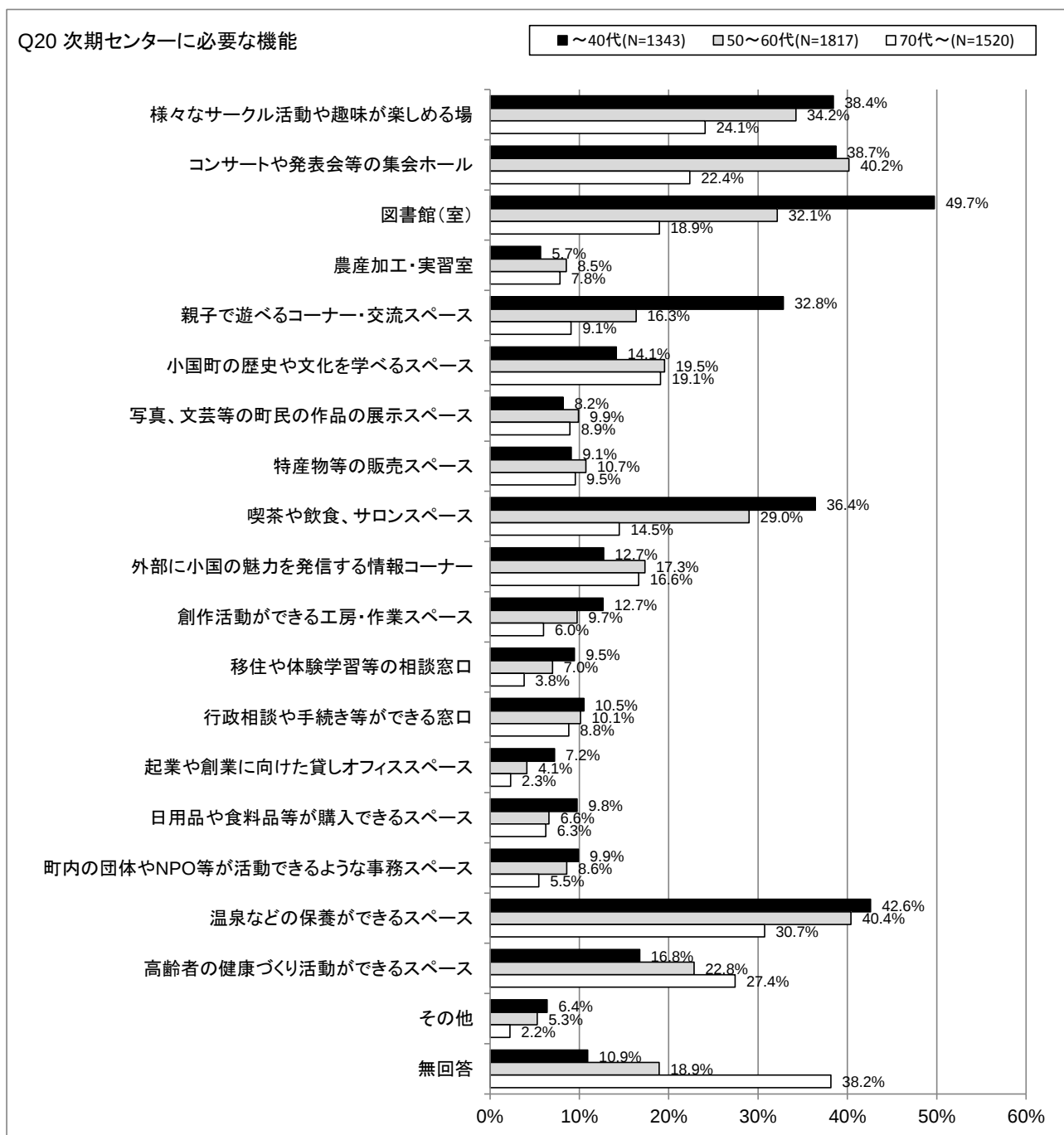
Q20 これからのまちづくりの拠点施設として、おぐに開発総合センターを建替えるとした場合、どのような機能が必要とお考えですか。(〇はいくつでも)

- 次期センターに望む機能について、性別で比較すると、「温泉などの保養ができるスペース」や「図書館(室)」、「様々なサークル活動や趣味の会が楽しめる場」、「高齢者の健康づくり活動ができるスペース」、「喫茶や飲食、サロンスペース」、「親子で遊べるコーナー・交流スペース」など、保養や交流のための機能については、男性より女性から多く求められていることが分かる。
- 一方、男性の方が女性より高い割合となっているものとしては、「小国町の歴史や文化を学べるスペース」や「外部に小国の魅力を発信する情報コーナー」、「行政相談や手続き等ができる窓口」、「町内の団体やNPO等が活動できる事務スペース」などが挙げられる。



Q20 これからのまちづくりの拠点施設として、おぐに開発総合センターを建替えるとした場合、どのような機能が必要とお考えですか。(〇はいくつでも)

- 次期センターに望む機能について、世代別でみると、「図書館（室）」は40代までの比較的若い世代の約半数が必要としているほか、「温泉などの保養ができるスペース」や「喫茶や飲食、サロンスペース」、「親子で遊べるコーナー・交流スペース」なども40代までの比較的若い世代でより望まれている。
- 一方、高齢世代では「高齢者の健康づくり活動ができるスペース」を求める声が比較的多い。



Q20-1 Q20で選択した機能の中で、特に利用したいと思うものはどれですか。(3つまで)

- 次期センターに求める機能のうち特に利用したいものについては無回答が多かったが、回答された中では、「温泉等の保養ができるスペース」が2割強と最も高い割合となった。

